令和７年度

事 業 報 告 書

社会福祉法人　秋田県社会福祉事業団

目　　次

令和７年度　秋田県社会福祉事業団事業報告書

ページ

Ⅰ　概況 -------- 1

Ⅱ　施設別の概要

秋田県北部老人福祉総合エリア -------- 7
秋田県中央地区老人福祉総合エリア -------- 9
秋田県南部老人福祉総合エリア -------- 11
高清水園 -------- 15
秋田県心身障害者コロニー -------- 17
由利本荘地域生活支援センター -------- 20
阿桜園 -------- 22
湯沢雄勝広域市町村圏組合　やまばと園 -------- 24
障害者支援センター御所野 -------- 26
秋田県点字図書館 -------- 28
秋田県聴覚障害者支援センター -------- 30

Ⅲ　公益的な取組

事務局 -------- 32
高清水園 -------- 33
秋田県心身障害者コロニー -------- 34
由利本荘地域生活支援センター -------- 35
阿桜園 -------- 37
湯沢雄勝広域市町村圏組合　やまばと園 -------- 38
障害者支援センター御所野 -------- 39
秋田県点字図書館 -------- 40

【資料】

１．　組織 -------- 41
２．　施設の概要 -------- 42
３．　施設のサービス利用状況 -------- 43
４．　役員等 -------- 45
５．　会議等 -------- 46
６．　職員 -------- 49
７．　研修の実施状況 -------- 51
８．　苦情解決処理状況 -------- 59
９．　虐待防止（対策）委員会の開催状況 -------- 61
１０．　ハイクオリティサービス推進システム -------- 62

Ⅰ　概　況

概　況

事業団は、令和３年度から令和７年度の５ヵ年経営計画の最終年度に、次期の計画として理念の具現化と長期的視点に基づき、令和８年度を始期とする中期経営計画を策定した。人的資本の最大化とガバナンスの高度化を両輪として、職場環境の向上を図り、人財育成・確保に取り組むとともに、ガバナンスの強化により組織力を高めつつ、健全な財務基盤の確立を推進し持続可能な法人経営を積極的に展開した。

１　信頼され選ばれる施設づくり

（１）　質の高い福祉サービスの提供

①　利用者の高齢化・重度化への対応

利用者の高齢化・重度化に対し、心身障害者コロニーでは身体状況や家族の意向を反映した寮移行を進め、令和７年９月末に「赤光支援課こぶし寮」を閉鎖して支援体制を最適化した。また、高清水園では加齢や身体機能の変化を総合的に捉えて障害支援区分の更新を重点的に行い、全入居者が実態に即した区分を取得するなど、各施設で個々のニーズに合わせた質の高いサービス提供体制の維持に努めた。

②　ハイクオリティサービス推進システム（理事長マネジメントレビュー）

質の高いサービス提供のために当法人で独自に運用しているハイクオリティサービス推進システムにおいて、令和７年度の重点事項として理事長から指示・提案があった次の事項について法人全体の課題として取り組んだ。

・意思決定支援の推進について

障がい分野においては、意思決定支援等ワーキンググループで指針、個別支援（意思決定支援）計画実践マニュアル、アセスメントシート等関連様式の整備を行い、実践に結びつけていくための必要な研修を段階的に実施した。令和８年度から地域移行等意向確認が義務化となる障害者支援施設はもとより、障害福祉サービス提供施設全体で丁寧に意思決定支援に努め、利用者の望む生活に向けて支援を行っていく。

高齢施設においては、意向の把握を行いながら施設移行等の生活の場の検討や生活の質の向上につながるように支援を行った。

・業務改善の取組と人材育成及び支援体制の充実について

ヒヤリ・ハット報告書の様式を統一するとともに、ヒヤリ・ハット報告書と事故報告書の様式を役割に応じて整理した。また、ヒヤリ・ハット報告に係る判断基準を明確化し、判断に迷いが生じないようにした。

ＮＩコラボ機能の活用や広報誌・議事録作成にＡＩを活用するなどし、業務効率の向上に努めた。また、心身障害者コロニーにおいて、業務改善委員会を立ち上げ、職員からの提案を受け入れる体制を整えている。

やまばと園において、１１月より服薬管理システム「服やっくん」を導入し、誤薬につながらない服薬支援体制を整えている。

・地域住民に対する広報や地域との連携について

対象となる事業所では地域連携推進会議を実施し、活動内容等を伝えるとともに、外部からの助言等を運営に反映させた。

高清水園においては、災害時協定を結んでいる日本赤十字東北看護大学との合同訓練や避難路整備を実施し、防災力の強化に努めている。また、由利本荘地域生活支援センターでは、保育園児との交流の機会を設け、実

施サービスとの連携を図っている。

③　児童の発達支援への対応

児童通所事業においては、「本人支援」の５領域「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」との関連性を明らかにした支援プログラムを作成し、事業所の創意工夫や特色を盛り込み公表している。

障がい児支援を行ううえでこどもの発達の段階や過程の理解が大切であることから、支援アドバイザーを講師に迎え、法人研修「こどもの心身の発達の理解」を実施した。受講者からは引き続き就学以降や思春期の発達についての研修希望が聞かれた。今後もこどもの育ちの連続性を意識した支援を行っていけるように努めていく必要がある。

（２）　利用者の安心・安全の向上

①　虐待防止など権利擁護の徹底

令和５年度から引き続き、事務局職員が各施設へ直接足を運び、支援場面の様子や職場環境を観察する機会を設けた。訪問後に事務局職員が気付いた点をまとめ、その内容を各施設の職員と確認しあい、日頃行っている支援の振り返りを行うことができた。

利用者虐待防止のための指針に基づいたマニュアルの理解と遵守、チェックリストによる振り返り、権利擁護に対する認識を深め情報共有を図ることを目的とした虐待防止責任者会議、家族会（保護者会）との意見交換の場づくりやアンケート調査を実施した。支援現場の不適切支援に対する職員の意識の醸成を図り、権利擁護の徹底を今後より一層推進していく。

②　苦情・要望への適切な対応

各施設では定期的な満足度調査や意見箱を通じて苦情・要望を把握し、備品の更新や接遇改善等の対応を迅速に実行した。第三者委員が参加する委員会を定期開催し、客観的な助言を運営に反映させることで、利用者ニーズの実現とサービスの向上を組織的に推進した。

③　感染症対策

日常的な感染症防止対策を継続し、感染症拡大防止のためのＢＣＰに基づいた訓練や研修を実施した。施設において感染症の発生があったが、直ちに利用者・家族等への情報伝達や利用の調整等、必要な対応を実施し、感染拡大防止に努めた。

２　地域とともに歩む施設づくり

（１）　地域における公益的な取組の推進

①　取組の充実

地域における福祉・生活課題の解決に向け、フードボックスによる食料支援や周辺環境の清掃活動、即売会や交流サロンを通じた余暇支援などの多様な公益的活動を展開した。また、防災訓練の共催や特殊浴槽の開放、点字普及活動等を通じて地域住民との交流を深め、福祉ニーズへの対応と相互理解の促進に努めた。

（２）　地域生活を支える支援（セーフティネット）

①　地域包括的な支援体制の整備

南部老人福祉総合エリアでは、養護老人ホームの廃止に際し、行政等と密接に連携しながら１０月までに全利用者の移行を完了させ、生活の場を途切れさせないセーフティネットとしての役割を果たした。

聴覚障害者支援センターでは、災害時に情報拠点としての役割を果たすため、実施可能な支援内容について協議・検討を行った。

近年多発する気象災害に備え、意思疎通支援者等を対象に気象予報士に

よる講演を実施し、日頃の備えや災害発生時の支援のあり方について学んだ。

②　地域生活支援サービスの提供

心身障害者コロニーでは、本荘・西目両地区のグループホーム再編を視野に入れ、地域に根差したサービス体制の整備を進めた。また、利用者の高齢化に伴う心身の変化を踏まえ、本人の意思を尊重しながら適切なサービス利用に向けた調整を行った。

（３）　利用者と地域住民との交流促進

①　交流機会の設定

感染症の影響もあったが、利用者と地域住民が交流するイベントを開催することができた。

やまばと園において、ボランティアの方々や職員と園周辺の清掃を行い、環境美化活動等を行った。

心身障害者コロニーにおいて、民生委員や手をつなぐ親の会などの視察を受け入れ、施設で行っている支援業務の理解を深めてもらう機会を設けた。また、地域の小学校などに対して職業体験の場を提供し、児童が福祉に係る認識を高めるための動機付けを図った。

障害者支援センター御所野において、ボランティアや実習生の継続的な受け入れ、近隣施設のイベントへの参加、広報やホームページによる広報活動を通じて地域住民との交流を深めた。

（４）　利用者が求める福祉サービスの確認

①　施設を取り巻く環境や地域の福祉サービスを知る

全ての事業所で意思決定支援の推進に取り組み、ワーキンググループを中心に新しい様式の導入や研修等を通じて、職員の意識向上を図った。

高清水園では、相談支援専門員と連携し、本人が望む生活に向けた福祉サービスの情報提供とマッチング支援に取り組んだ。また、入居者の年齢や身体機能の変化を総合的に捉え、障害支援区分の更新を実施し、全入居者が適切な支援区分を取得した。

３　職員がやりがいを持って働ける職場づくり

（１）　多様で良質な福祉人材の確保

①　職員採用活動の拡充

今年度は、教養試験・適性検査等をオンライン方式で実施し、面接試験についてはこれまでどおり集合型で行う形式で採用試験を実施した。オンライン受験については受験者から概ね好評を得られ、結果として予定した採用人員の確保につながった。

また、主に大学３年生を対象としたリクルートサイトのプレサイトを公開したところ、ＷＥＢセミナーや施設見学、就業体験に結びつき、これまでの母集団を上回る学生から興味関心を得ることができ、新年度を前に効果的な採用活動を展開することができた。

さらに大学・短大・専門学校等への直接訪問を継続し、関係構築を切れ目なく進めることができた。

②　スピーディかつ積極的な情報発信

新たなホームページによる情報発信や Instagram の継続的な更新により、検索エンジンからの流入が増加傾向にあり、サイト訪問者やフォロワーも徐々に増加している。学生からも「ホームページを確認した」との声が寄せられており、非常に効果的な取り組みとなった。

また、各施設と連携し、ハローワーク掲載情報を速やかにホームページへ反映することで、人材確保にも寄与した。

③　オープンカンパニーやイベント参加の充実

プレサイトの公開に合わせて、オープンカンパニーや就業体験、インターンシップ等のプログラムを設け、主に障害者支援センター御所野において学生の受け入れを実施した。

また、学生を施設行事に招待したり、内定式を開催したりすることで、内定者同士の関係構築や不安解消を図ることができた。その結果、内定辞退は発生せず、内定者全員を採用へと結び付けることができた。

④　契約職員確保のための取組

契約職員向けのリクルートサイトについては、サイト訪問者が必要な情報を確認しやすいように内容の更新・整理を継続的に行った。また、ホームページへの求人掲載に加え、新聞社への広告掲載、さらに中央シルバーエリア内で開催される各種研修の受講者や利用者をターゲットにした求人情報掲示を行い、契約職員の確保に取り組んだ。

（２）　事業団の将来を担う中核的な人材の育成

①　キャリアパス体系、研修体系の整備

法人単独で実施しているキャリアパス体系に基づいた福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程は、初任者コースとチームリーダーコースを実施し、中堅職員コースと管理職員コースはフォローアップ研修を実施した。フォローアップ研修について、事前にアンケートを実施し、学びたいことや課題に感じていること等から実情に応じた研修内容の組立てを行った。

また、今年度初めて契約職員を対象としたスキルアップ研修を実施し、福祉職員としての基本的スキルを学ぶ機会とした。今後は、スキルアップ研修の内容や進め方等を検証し、ブラッシュアップしていく。

②　モチベーションアップに向けた取組

法人キャリアパス研修のフォローアップ研修において、キャリアデザインシートの相互紹介の場を設け、現状の役割とキャリアを確認するとともに、次のキャリアに向けてキャリアデザインの検討を行った。

③　強度行動障がいに対する支援強化

国立のぞみの園で実施する中核的人材養成研修の受講及びサブトレーナーの受講を行い、強度行動障害を有する方に対する支援における専門的人材の養成に努めた。法人ワーキングにおいて支援計画シート等の検討を行い、統一した様式を使用していくこととした。様式への共通認識を持ち、適切に使用していくことで、利用者の状態や環境の把握に努め、変化に適切に対応していける体制を整えていく。

また、国立のぞみの園への職員派遣を継続し、実践内容を法人実践発表会で報告するなどフィードバックする機会を設け、支援力の強化に努めた。今後も国立のぞみの園への職員派遣を継続するとともに、派遣修了職員が実践内容を活かしていけるよう取り組んでいく。

④　メンター制度の実施

メンター制度を実施し、新規採用職員１７名に対し事務局職員が３回の面談を行った。併せて年度中途採用職員２名に対しても、採用時期に応じて回数は異なるものの面談を行った。直接の上司であるＯＪＴリーダーと連携を図りながらメンタル面のサポートに取組み、不安の解消に努めた。

一部職員に不安や悩み、ストレスを抱えている状況も見られ、今後も悩みを率直に話す場として制度が活用されるよう、アプローチの方法やサポート体制を適宜見直し、より制度の充実化を図っていく。

（３）　働き方改革を踏まえた処遇の改善と職場環境の向上

①　人事労務管理体制の強化

労働関係法令の大規模改正を見据えた管理職への意識改革・法令周知の研修機会を設定しようとしたが、法令改正自体が見送られたため、次年度に取り組むこととした。

一方で勤怠管理システムの導入を目途に慣例的取扱いをしている勤務シフト管理の運用の一部（勤務変更や代休など）について、共通認識をもって取扱うこととした。

また、一般事業主行動計画の更新を行い、より職員が働きやすい環境を構築するための指針として令和８年度から令和１２年度の５年度に渡り、達成目標を設定した。

②　ラインケアとハラスメント対策の強化

ストレスチェック制度の結果分析を踏まえた職場環境改善に取り組むとともに、施設の相談担当者に対する研修を実施し体制の強化に努めた。

また、ストレスチェックシステム内のセルフチェックオプションの周知を行い、ラインケア・セルフケア両面の体制整備をした。

（４）　業務改善に向けた取組

①　業務におけるＩＣＴの活用

各施設のｗｉ－ｆｉ化を完了し、館内のどこからでもネットワーク環境に接続できる体制を整備した。これにより、各種ＩＣＴ機器を導入するための基盤が構築された。

また、業務改善に資する取り組みとして、服薬支援システムや勤務表作成システムを一部施設に導入し、運用検証を開始した。特に勤務表作成システムは、複雑化するシフト作成において有効であり、勤怠管理に関するペーパーレス化にもつながることから、今後は各施設への導入拡大が必要と考えられる。

一方で、現在使用している基幹システムについてはサービス提供終了が示されており、次年度以降、システム全体の見直しを進める必要がある。

②　ＩＣＴ化プロジェクトチーム

先進地視察として東京都社会福祉事業団を訪問し、ＩＣＴ機器の導入のみでは業務効率化は実現しないことを改めて確認した。業務手順全体の見直しと、トライ＆エラーを繰り返しながら改善を進めることの重要性についてチーム内で共有するとともに、施設長会議等での報告を通じて提言が行われた。

また、視察においては、チームメンバーそれぞれが自身の所属施設の立場に基づいた質問を積極的に行うなど、ＩＣＴ化の推進をする人材の育成という目的も達成することができた。

③　グループウェアの活用

グループウェアのさらなる活用を図るため、各施設の情報システム担当者との研修や打ち合わせを重ね、起案用紙作成・文書収受・電子回覧を定着させた。令和８年度からは、電子決裁・電子申請・スケジュール管理など新たな機能の活用を推し進める予定である。引き続き、各施設の情報システム担当者とともに、より使いやすいグループウェアの在り方を模索していく。

４　自立し持続可能な経営基盤づくり

（１）　コンプライアンスの徹底

①　コンプライアンス教育

コンプライアンスや虐待防止等の研修を計画的に実施した。法令遵守と倫理観を醸成し、不適切な支援を防止することで組織の透明性を高め、持

続可能な経営基盤の確立と信頼性の向上に努めた。

（２）　自立的な経営を支える財務基盤の確立

①　基本姿勢

当法人が将来にわたり持続的・安定的な福祉サービスを提供していくため、財務指標等に基づき法人全体、各施設、事業ごとの経営状況を把握・分析を行った。社会福祉法人としてより安定した事業継続を図るため、南部老人福祉総合エリアに係る事業の見直しを行った。

②　事業の見直し

県南地域全体で養護老人ホームの措置者数が減少の一途をたどっており、南部老人福祉総合エリア養護老人ホームにおいても定員割れが続いていたが、１０月までに他法人への転居がスムーズに進み、年度末で廃止した。

また、利用者の大半が南部老人福祉総合エリア養護老人ホームであった老人居宅等介護事業及び居宅介護支援事業等も併せて廃止した。

③　補助制度の効果的活用

人材確保・職場環境改善等補助金を活用し職員の待遇改善を図った。

また、秋田県や各市町村から物価高騰等に伴う事業費補助金の交付を受けた。

④　県有施設の今後の在り方

県から指定管理を受けている３エリア及び点字図書館について、次期期間（令和８年度から令和１２年度）に係る指定管理に応募し指定管理者として選定された。なお、次期期間については、指定管理料の大幅な見直しが行われている。

（３）　効果的な改修による施設の長寿命化と計画的な改築等

①　将来を見据えた施設整備

老朽化が進んでいる県から譲与された施設については、建替えまで長寿命化を図るため、専門家からのアドバイスを踏まえ、高清水園では玄関前庇、阿桜園では厨房器具の更新や厨房設備修繕を行った。

②　積立金

定期的に更新が必要となるパソコン等備品の将来の更新に備え、備品等積立金に５千万円の積立、将来の阿桜園及び高清水園の施設整備に向け、事業展開積立金に約１億円の積立を行った。

（４）　中長期を見据えた経営計画

①　法人第５次中期経営計画の策定（令和８年度～１２年度）

法人の基本理念の実現に向けて、法人を取り巻く状況や動向を分析し、具体的な運営方針及び期間内の目標を定めた。第４次計画の評価や中長期の動向分析を踏まえ、法人共通の重点項目を設け、各施設の地域特性や機能に応じて具体的な取組みを行っていくこととしている。

また、令和９年度を中間見直し年度とし、サービス報酬改定等の動向を反映させていく。

Ⅱ　施設別の概要

秋田県北部老人福祉総合エリア

重点的な取組

①利用者増に向けたPR活動の展開

・全世代を対象にＳＮＳ（「Instagram」・「Ｘ」）にて定期的なイベントの開催や各種割引サービスの情報発信のツールとして顧客獲得に務めた。

・３エリア協力のもと、県内全道の駅にパンフレットを配置したほか、道の駅や観光施設、公民館等にイベントポスターを掲示した。また、秋田魁新報や北鹿新聞に健康づくり教室やイベント開催情報を掲載し集客に務めた。さらに地元広報誌である「十二所だより」に毎月各種教室などの情報を掲載し周知に務めた。

・各曜日別等の優待サービスを企画・実施し、館内に垂れ幕やポスターでの掲示及びＳＮＳでの周知に務めた。

②健康増進・生きがいづくり事業の充実

・地域包括支援センター「おおたき」との共催による健康教室を実施したほか、高齢者の健康増進や相互交流を目的にグラウンド・ゴルフ大会を６月・１０月に、ユニカール交流会を７月・１１月に各協会の協力を得ながら開催した。

・全世代型健康づくりとして、リズムエクササイズ・パンチでエクササイズ・ピラティスの３教室を春と秋の２期実施した。

・生きがいづくり教室として、週３回開催している木工教室を引き続き開催したほか、１２月・１月に次年度開催に向けて茶道教室を試行的に実施し好評を得た。

・世代間交流事業（さつまいも苗植え・収穫：市内８保育園）を実施し、園児と在宅高齢者との相互交流を図ることが出来た。

③利用者サービスの充実・利用者満足度の向上

・利用者満足度調査や宿泊客アンケート調査を実施し、利用者の意見や要望について対応可能なものは即時対応し、利用者サービスの向上に務めた。

④設備等のチェックと早期改善に向けた対応

・技師２名による建物・設備等の日常点検、業者による定期保守点検にて不良個所の早期発見と修理・修繕要望を実施し、営業休止や短縮営業となることなく対応出来た。

・職員の定期巡回時、目視にて廊下の水濡れなどの危険個所が無いか安全点検に務めたほか、浴室内の整理整頓を行い、転倒等の事故防止に務めた。

北部エリアの利用状況

１．コミュニティセンターの利用状況

単位：人

区分		年間合計（人）		比較増減
		令和７年度	令和６年度	
有料	休憩	30,308	30,252	56
	宿泊	2,344	2,665	△ 321
	会議室等	1,910	2,487	△ 577
	屋内運動広場	460	776	△ 316
	テニスコート	1,259	1,672	△ 413
	各種自主事業等	917	905	12
	小計	37,198	38,757	△ 1,559
無料	屋内運動広場	14,663	15,043	△ 380
	屋外運動施設等	1,189	1,581	△ 392
	各種自主事業等	8,116	10,045	△ 1,929
	視察等	26	26	0
	小計	23,994	26,695	△ 2,701
合計		61,192	65,452	△ 4,260

２．各種教室・講座の利用状況

（　　）内は開催回数

区分			令和７年度	令和６年度	比較増減
生きがい活動	有料	陶芸	0（ 0 ）	0（ 0 ）	0（ 0 ）
		木工	331（ 132 ）	454（ 134 ）	△ 123（ △ 2 ）
		園芸	0（ 0 ）	0（ 0 ）	0（ 0 ）
		茶道	15（ 2 ）	0（ 0 ）	15（ 2 ）
		その他の教室	571（ 36 ）	451（ 36 ）	120（ 0 ）
		小計	917（ 170 ）	905（ 170 ）	12（ 0 ）

区分			令和７年度	令和６年度	比較増減
健康づくり	有料	スポーツ大会等	361（ 4 ）	336（ 4 ）	25（ 0 ）
		小計	361（ 4 ）	336（ 4 ）	25（ 0 ）
交流活動	無料	交流イベント等	3,078（ 24 ）	5,205（ 25 ）	△ 2,127（ △ 1 ）
		小計	3,078（ 24 ）	5,205（ 25 ）	△ 2,127（ △ 1 ）
その他		映写会	1,576（ 142 ）	1,753（ 144 ）	△ 177（ △ 2 ）
		無料開放	134（ 1 ）	138（ 2 ）	△ 4（ △ 1 ）
		ポイントカード等	2,967（ 12 ）	2,613（ 12 ）	354（ 0 ）
		小計	4,677（ 155 ）	4,504（ 158 ）	173（ △ 3 ）
合計			8,116（ 183 ）	10,045（ 187 ）	△ 1,929（ △ 4 ）

３．利用状況の推移

単位：人

年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
年間利用者数	44,465	43,576	60,501	65,452	61,192

秋田県中央地区老人福祉総合エリア

重点的な取組

①利用者増に向けた事業活動及びPR活動の展開

・　「エリアだより」を毎月作成し、市民サービスセンター・御所野町内各戸への配布するとともに、ホームページや中央エリアバス停ポスターケースを利用してエリアの事業の周知に努めた。
・休憩入浴利用者増に向けて、毎月第２水曜日は休憩入浴割引デーとして終日半額でご利用いただいた。
・今年度もエリア感謝祭をコロナ禍以前の規模で実施した。天候に恵まれ屋内外でのイベントが盛況であり、子供連れの家族を中心に好評を得た。
・健康づくり事業で「自宅でできる腰痛対策講座」を実施した。実施時は終始楽しい雰囲気で行われ、参加された方々からも好評を得た。
・２月１日から２月５日にかけて休憩入浴利用の方限定でガラポン抽選会を実施し、期間中は休憩入浴の料金割引を行った。景品が当たった時に喜ぶお客様も見られ、好評を得た。
・協賛イベントとして、ミニ四駆団体とのミニ四駆大会を年４回、７月２８日に親子体験教室を多目的ホールにて実施した。

②健康増進・生きがいづくり事業の充実

・健康と身体機能の維持を目的として、各種教室に若年から高齢の方まで幅広い世代の参加があり、楽らく体操・太極拳教室は定員を超える申し込みがありキャンセル待ちができるほどの人気を得た。
・世代間交流事業として、ごしょの保育園児・かわしり保育園児・ウエルハウス御所野入居者の方々による、さつまいもの苗植え及び収穫を行い交流を深めた。

③利用者サービスの充実・利用者満足度の向上

・アンケート用紙を館内２カ所に設置するとともに、毎月第２水曜日の休憩入浴半額デーには、エントランスにテーブルや椅子を設置し、回答しやすい環境を整えて満足度調査を実施した。寄せられたご意見は職員間で共有するとともに、苦情解決処理委員会へ報告した。苦情受付件数は３件で、内容は施設・設備に関するもの、サービス内容に関するもの、他利用者に関するものが各１件ずつであった。これらについて第三者委員から意見・助言を受け、お客様へのサービス向上に努めた。
・こどもの日、県民の記念日、敬老の日には、休憩入浴料金を終日半額とし、利用者サービスの向上に努めた。

④設備等の維持管理

・建築基準法や各法令に基づき、職員による自主点検や業務委託による保守点検を実施した。建物や設備等の経年劣化が主因の故障や破損があり、事故の未然防止を含め利用者保護を最優先に行った。改修中のプールを含め、規模の大きな修繕等については所管の秋田県へ点検報告や修繕要望を行った。

中央エリアの利用状況

１．コミュニティセンターの利用状況

※単位 ： 人

区分		年間合計（人） 令和７年度	年間合計（人） 令和６年度	比較増減
有料	休憩	32,975	28,824	4,151
	宿泊	2,144	1,767	377
	会議室等	19,115	20,374	△ 1,259
	屋内運動広場	24,337	21,944	2,393
	緑地運動広場	1,615	2,459	△ 844
	陶芸室等	1,852	1,902	△ 50
	プール	0	0	0
	休憩＆プールセット	0	0	0
	各種自主事業等	3,768	4,762	△ 994
	小計	85,806	82,032	3,774
無料	屋内運動広場	2,268	2,304	△ 36
	屋外運動施設等	89	179	△ 90
	各種自主事業等	412	358	54
	視察等	0	0	0
	小計	2,769	2,841	△ 72
合計		88,575	84,873	3,702

２．各種教室・講座の利用状況

※単位 ： 人 （ ）内は開催回数

区分			令和７年度	令和６年度	比較増減
有料	生きがい活動	陶芸	554 (64)	401 (64)	153 (0)
		フラワー	0 (0)	0 (0)	0 (0)
		茶道	85 (24)	99 (24)	△ 14 (0)
		その他の教室	94 (5)	141 (6)	△ 47 (△ 1)
		小計	733 (93)	641 (94)	92 (△ 1)
	健康づくり活動	太極拳	546 (36)	456 (33)	90 (3)
		コアトレEX	301 (32)	266 (32)	35 (0)
		はつらつくらぶ事業	0 (0)	0 (0)	0 (0)
		健康づくり事業	482 (47)	458 (48)	24 (△ 1)
		小計	1,329 (115)	1,180 (113)	149 (2)
	その他	イベント等	1,706 (1)	2,941 (1)	△ 1,235 (0)
		小計	1,706 (1)	2,941 (1)	△ 1,235 (0)
合計			3,768 (209)	4,762 (208)	△ 994 (1)

有料	健康	水泳教室	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合計			0 (0)	0 (0)	0 (0)

区分			令和７年度	令和６年度	比較増減
その他	無料	ポイントカード	330 (330)	246 (246)	84 (84)
		無料開放等	0 (0)	19 (2)	△ 19 (△ 2)
		ボランティアルーム	82 (4)	93 (7)	△ 11 (△ 3)
合計			412 (334)	358 (255)	54 (79)

3．利用状況の推移

※単位:人

年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
年間利用者数	92,585	77,355	89,080	84,873	88,575

秋田県南部老人福祉総合エリア

ハイクオリティサービス推進システム（理事長マネジメントレビュー）

①意思決定支援の推進について

・養護老人ホーム及び居宅支援センターの廃止に伴い、利用者等への説明と意向確認を丁寧に行いながら、利用者の意向に基づいたサービス利用の継続を図った。

・軽費老人ホームでは利用者アンケートを実施するなどして利用者ニーズの把握とその充足に努めた。

②業務改善の取組と人材育成及び支援体制の充実について

・記録システム「ＶＵＥＶＯ」を活用し会議記録作成の効率化を検証するとともに、軽費老人ホームおける介護記録等に係るシステムの検討を行い、次年度からの新システム導入による業務改善の準備を進めた。

・介護技術研修や認知症研修を行い職員のスキルアップを図るとともに、職員間での情報共有を促進する環境を整えた。

③地域住民に対する広報や地域との連携について

・健康の丘おおもりまつりを横手市等と共催するとともに、エリア秋の祭典を同時開催し、地域住民の参加機会の提供と利用の促進を図った。

重点的な取組

①養護老人ホームの廃止について

・利用者及び家族等の理解を得ながら、関係機関との連携により他施設への移行を進め、１０月にはすべての利用者の移行が完了し、年度末での廃止となった。

・利用者の心身の状況等を踏まえた調整を行った結果、県南の各養護老人ホームへ３１名、横手市の特別養護老人ホームへ2名、横手市（当エリア）の軽費老人ホームへ1名及び退去者１名となった。

②利用者の安心、安全の向上について

・福祉用具の活用や居室内レイアウト変更等を行い、介護度が高くなっても生活できるように環境調整をした。

・各居室にエアコンが完備されていない軽費老人ホームにおいて、夏場の暑さ対策として、施設内にエアーカーテンを設置して建物内の冷気の確保を進めながら、利用者への見守り支援の強化により、熱中症防止等の健康管理の徹底を図った。

③介護サービスにおける生産性の向上について

・軽費老人ホームにおいて、利用者へのアンケート結果も踏まえ、委員会の中で日々の業務のあり方を検討し、業務内容や業務手順の見直し、情報共有の徹底等により支援の充実と職員の働きやすさに繋げた。

養護老人ホーム

①スムーズな移行への対応

・利用者及び家族等への説明と意向確認を丁寧に行いながら、移行に係る手続きについては措置権者の行政と密接に連携して進めた。

・移行先の各施設との調整を適宜行いながら移行スケジュールを作成し、利用者等への周知を図って計画的な移行を行った。

軽費老人ホーム

①安定した運営

・協力医療機関である大森病院の協力を得ることにより、新たな加算を取得し収入増に繋げた。
・節電節水への取組を継続し、経費の削減に努めた。
・施設内のＬＥＤ化されていない電灯用の蛍光管の購入を計画的に行ったが、すでに購入不可能な箇所についてはＬＥＤへの切替工事を行った。

②安心安全な生活の提供

・介護の必要性に応じた福祉用具の使用により安全に配慮した支援を行った。
・利用者の状況に合わせて区分変更を進め、サービス量の低下に至らないよう見直しを行った他、一般利用者２名が特定施設入居者生活介護事業へ移行した。

③日中活動の充実

・軽費老人ホーム内の活動企画への参加に加え、エリアコミュニティセンターのイベント等にも多くの利用者が参加した。
・機能訓練の定期的な実施とレクリエーションの企画により、利用者の身体機能の維持を図るとともに、人と繋がる交流機会の場を提供して支援した。

居宅支援センター

指定居宅介護支援事業所・指定訪問介護事業所

・事業の廃止に伴い、利用者等への説明と意向の確認を進めながら、サービス利用の継続に支障の出ないよう丁寧な対応を行った。
・行政等関係機関との連携を図りながら、計画的に他事業所利用への移行を進め、令和７年度末で利用者全員の移行が完了した。

南部エリアの利用状況

１．コミュニティセンターの利用状況

単位：人

区分		年間合計（人）		比較増減
		令和７年度	令和６年度	
有料	休憩	10,315	10,377	△ 62
	宿泊	538	601	△ 63
	会議室等	22	57	△ 35
	屋内運動広場	786	899	△ 113
	プール	7,118	6,288	830
	セット券	270	91	179
	各種自主事業等	1,675	1,647	28
	小計	20,724	19,960	764
無料	屋内運動広場	19,495	17,893	1,602
	屋外運動施設等	3,423	2,937	486
	各種自主事業等	12,335	11,140	1,195
	視察等	0	9	△ 9
	小計	35,253	31,979	3,274
合計		55,977	51,939	4,038

２．各種教室・講座の利用状況

（　　）内は開催回数

区分			令和７年度	令和６年度	比較増減
生きがい活動	有料	陶芸	1,194（ 240）	1,231（ 239）	△ 37（ 1）
		民芸	78（ 12）	150（ 23）	△ 72（ △ 11）
		水泳	770（ 78）	702（ 61）	68（ 17）
		茶道	80（ 11）	72（ 10）	8（ 1）
		その他の教室	1,237（ 112）	1,115（ 107）	122（ 5）
		小計	3,359（ 453）	3,270（ 440）	89（ 13）

区分			令和７年度	令和６年度	比較増減
健康づくり	有料	スポーツ大会等	177（ 5）	224（ 5）	△ 47（ 0）
		小計	177（ 5）	224（ 5）	△ 47（ 0）
交流活動	無料	交流イベント等	3,146（ ― ）	2,654（ ― ）	492（ ― ）
		小計	3,146（ ― ）	2,654（ ― ）	492（ ― ）
その他		映写会	277（ 24）	283（ 23）	△ 6（ 1）
		無料開放	0（ 0）	0（ 0）	0（ 0）
		ポイントカード等	39（ ― ）	55（ ― ）	△ 16（ ― ）
		小計	316（ 24）	338（ 23）	△ 22（ 1）
合計			3,639（ 29）	3,216（ 28）	423（ 1）

３．利用状況の推移

単位：人

年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
年間利用者数	47,219	47,656	52,512	51,939	55,977

南部エリアの利用状況

１．利用者数（契約者数）

単位：人

種別	R7.3.31		R8.3.31		R7.4～R8.3	
	定員	利用者数	定員	利用者数	延利用者	利用者／日
養護老人ホーム	50	35	50	0	4,867	13.3
軽費老人ホーム	50	47	50	42	15,218	41.7
内　特定入居者生活介護	30	26	30	26	8,951	24.5

２．利用者の状況（令和８年３月３１日現在）

（１）養護老人ホーム

介護度区分	要支援１	要支援２	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男	0	0	0	0	0	0	0	0
女	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0

年齢	60～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95歳～	計
男	0	0	0	0	0	0	0	0
女	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0

（２）軽費老人ホーム

介護度区分	要支援１	要支援２	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男	0	2	4	3	0	1	0	10
女	0	5	10	5	2	0	0	22
計	0	7	14	8	2	1	0	32

年齢	60～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95歳～	計
男	0	1	1	5	1	4	2	14
女	0	1	2	4	7	12	2	28
計	0	2	3	9	8	16	4	42

（３）居宅支援サービス

種　　別	R7.4～R8.3延件数
指定居宅介護支援事業	517
指定訪問介護事業	2,069

高清水園

ハイクオリティサービス推進システム（理事長マネジメントレビュー）

①意思決定支援の推進について

・法人ＷＧと連携し新様式の導入や研修を通じ職員の意識向上を図った。日々の記録や満足度調査から利用者の意向を多角的に分析・反映し、日常の選択機会創出や地域移行に必要なスキルの支援を実践した。

②業務改善の取組と人材育成及び支援体制の充実について

・ＩＣＴ活用やペーパーレス化で業務効率化と情報共有を迅速化。ｅラーニング活用、資格取得研修奨励を行い専門的支援の質を向上させた。誤薬防止では仕切りケース導入とダブルチェックを徹底し、誤薬解消に向けた安全体制を構築した。

③地域住民に対する広報や地域との連携について

・日本赤十字東北看護大学と合同訓練や避難路整備を行い防災力を強化。広報紙や出張販売等で地域交流を深めつつ、地域連携推進会議やグループホーム懇談会を通じて外部の助言を運営に反映。透明性が高く地域に根差した施設運営を推進した。

重点的な取組

①障がいに関する専門性の向上

・令和８年度の法人共通アセスメント導入に向け、全職員がｅラーニングで専門性を強化。サポートセンター職員全員が強度行動障害支援者養成研修を修了し、得た知識を特性に応じた支援に反映させ、組織的な質の向上を図った。

②義務化へ向けてのシステム化

・身元引受人等へのアンケートを実施し、意向や地域生活協力体制をアセスメントに反映。意思決定支援研修の受講により専門性を高めるとともに、満足度調査に地域移行の設問を追加し、入居者の将来像に沿った支援体制を整えた。

③地域生活基盤の安定に向けた支援の継続

・相談支援専門員と連携し、本人が望む生活に向けた福祉サービスの情報提供とマッチング支援に取り組んだ。また、入居者の年齢や身体機能の変化を総合的に捉え、障害支援区分の更新を実施し、全入居者が適切な支援区分を取得した。

④働きがいのある職場づくり

・ＮＩコラボの活用で事業所全体の情報共有の強化・効率化・円滑化を図る体制を構築した。また職員の資格取得を推奨して資質向上を図った。
・多職種連携によるチーム支援体制を構築し、情報共有を図り利用者のＱＯＬ向上を積極的に推進した。

⑤医療措置協定締結機関との連携及び感染症対応力の向上

・新興感染症発生時の対応を含め、協力医療機関との連携強化について検討を行ったが、協定締結までは至らず、次年度移行も検討する。
・全職員を対象に感染症対応研修を実施し、感染予防策の徹底とともに、発生時の迅速な対応手順を共有し、園内における感染予防の強化を図った。
・全職員を対象に感染症対応研修及び訓練を実施し、感染予防策の徹底とともに、発生時の迅速な対応手順を共有し、園内における感染予防の強化を図った。

高清水園の利用状況

１．利用者数（契約者数）

単位：人

種別	R7.3.31		R8.3.31		R7.4～R8.3	
	定員	利用者数	定員	利用者数	延利用者	利用者／日
施設入所支援	88	80	88	76	27,240	74.7
生活介護	92	88	92	82	20,880	57.3
共同生活援助（GH結）	5	5	5	5	1,441	4.0
共同生活援助（GHみのり）	5	5	5	5	1,701	4.7
共同生活援助（GHさくら）	5	4	5	5	1,140	3.2
共同生活援助（GHあおぞら）	5	5	5	5	1,773	4.9
共同生活援助（GHこまち）	4	4	4	4	1,381	3.8
共同生活援助（GHあすか）	4	3	4	4	1,182	3.3
短期入所	8	－	8	8	243	0.7

種　　別	R7.4～R8.3延件数
相談支援（児童含）	876
日中一時支援	47

２．利用者の状況（令和８年３月３１日現在）

（１）施設入所

支援区分	無	1	2	3	4	5	6	計
男					2	14	34	50
女						8	18	26
計	0	0	0	0	2	22	52	76

年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
男	0	1	13	18	18	0	0	0	50
女	0	3	9	8	5	1	0	0	26
計	0	4	22	26	23	1	0	0	76

（２）グループホーム

支援区分	無	1	2	3	4	5	6	計
男	0	0	1	4	3	2	1	11
女	0	0	3	6	5	1	2	17
計	0	0	4	10	8	3	3	28

年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
男	0	0	3	6	2	0			11
女	2	0	6	5	3	1			17
計	2	0	9	11	5	1	0	0	28

秋田県心身障害者コロニー

ハイクオリティサービス推進システム（理事長マネジメントレビュー）

①意思決定支援の推進について

・法人ＷＧ主催の意思決定支援に係る研修や、知的障がい分野の外部研修に多くの職員が参加し、知識や視点を広げる貴重な機会となった。職員それぞれが意思決定支援の重要性を改めて理解し、日々の実践に活かせる学びを深めた。

②業務改善の取組と人材育成及び支援体制の充実について

・新たに業務改善委員会を立ち上げ、職員からの改善提案を受け入れる体制を整えた。職員のスキル向上に向けて感染症対策、アサーティブコミュニケーション、障害者差別解消法等の研修を実施し、外部研修に参加した職員の研修報告を共有することで、学びを組織全体に広げる取り組みを進めた。

③地域住民に対する広報や地域との連携について

・民生委員や手をつなぐ親の会などの視察を受け入れ、施設で行っている支援業務の理解を深めてもらう機会を設けた。また、地域の小学校などに対して職業体験の場を提供し、児童が福祉に係る認識を高めるための動機付けを図った。併せて、地域連携推進会議の実施及びホームページを活用した情報発信により、事業活動の内容やサービスを地域に広く伝えるよう取り組んだ。

重点的な取組

①虐待防止・権利擁護・意思決定支援の徹底

・虐待防止研修やロールプレイング、ハラスメント対策、意思決定支援の研修を通じて、職員の支援力と権利擁護の意識向上を図った。チェックリストやセルフチェックを定期的に実施し、支援の振り返りと課題共有に活かした。良い支援を称えるグッジョブシートや挨拶・呼称強化月間、倫理・行動基準の読み合わせを行い、職場の意識向上と風通しの良い環境づくりを推進した。

②より良いサービス提供体制の確立

・利用者の高齢化に伴う疾病や身体状況の変化に対応するため、本人及び家族の意向を丁寧に確認しながら、施設内での寮移行の調整を進めた。併せて、入所利用者数の減少に伴い、適切な職員配置とサービスの質を維持するため寮の編成を見直し、本人及び家族の理解を得て、令和７年９月末で赤光支援課こぶし寮が閉鎖に至った。

・強度行動障害に係る中核的人材養成研修を受講し、専門性の向上と支援体制の強化に取り組んだ。研修で得た知識や視点を日々の支援に反映し、より適切で安定した支援の提供に努めた。

・就労継続支援Ｂ型事業においては、支援学校からの実習生を積極的に受け入れ、将来の進路選択に役立つ経験を提供した。また、受け入れ体制の見直しや職員間の連携強化を図り、より質の高い支援環境の整備に取り組んだ。

③地域に根差したサービス体制の整備

・本荘・西目両地区のグループホーム再編を視野に入れ、地域に根差したサービス体制の整備を進めた。また、利用者の高齢化に伴う心身の変化を踏まえ、本人の意思を尊重しながら適切なサービス利用に向けた調整を行った。

④中期経営計画の策定

・中期経営計画の策定を通じて、組織としての方向性と重点施策を明確化した。計画策定の過程で得られた課題や改善点を整理し、次年度以降の取り組み基盤を強化した。また、関係部署との連携を深め、計画実行に向けた体制整備を進めた。

⑤災害対策への対応

・利用者の安全確保を最優先とし、地震、火災、感染症等の多様な災害リスクに対応できる体制整備を進めた。また、各課において年間を通して計画的に避難訓練を実施し、利用者・職員が災害時に落ち着いて行動できるよう訓練を重ねた。

心身障害者コロニーの利用状況

１．利用者数（契約者数）

単位：人

種別	R7.3.31		R8.3.31		R7.4～R8.3	
	定員	利用者数	定員	利用者数	延利用者	利用者／日
施設入所支援	340	290	340	271	98,011	268.6
生活介護	350	285	350	269	68,141	186.7
就労継続B型	60	52	60	53	11,678	44.5
共同生活援助（GHわかまつ）	6	5	6	6	1,853	5.1
共同生活援助（GHやすらぎ）	5	5	5	5	1,809	5.0
共同生活援助（GHそよかぜ）	5	5	5	5	1,822	5.0
共同生活援助（GHはまなす）	4	4	4	3	1,376	3.8
共同生活援助（GHまつかぜ）	5	4	5	5	1,502	4.2
共同生活援助（GHしおさい）	5	4	5	4	1,458	4.0
共同生活援助（GHなでしこA）	5	4	5	3	1,429	4.0
共同生活援助（GHなでしこB）	4	4	4	4	1,457	4.0
共同生活援助（GH御門A）	5	5	5	5	1,807	5.0
共同生活援助（GH御門B）	5	5	5	5	1,752	4.8
共同生活援助（GH清和A）	5	4	5	4	1,326	3.7
共同生活援助（GH清和B）	5	3	5	4	1,217	3.4
共同生活援助（GH朋A）	5	4	5	3	1,401	3.9
共同生活援助（GH朋B）	5	5	5	5	1,809	5.0
共同生活援助（GHめぐみ）	6	5	6	5	1,795	5.0
共同生活援助（GH菖蒲）	6	6	6	6	2,168	6.0
共同生活援助（GH若菜）	5	4	5	5	1,449	4.0
共同生活援助（GH虹）	5	5	5	5	1,746	4.8
短期入所	5	－	5	－	497	1.4

種　別	R7.4～R8.3延件数
日中一時支援	175

２．利用者の状況（令和８年３月３１日現在）

（１）施設入所

支援区分	無	1	2	3	4	5	6	計
男	0	0	1	5	29	54	62	151
女	0	0	0	2	17	30	71	120
計	0	0	1	7	46	84	133	271

年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
男	1	20	17	20	29	16	31	17	151
女	1	2	5	11	20	18	44	19	120
計	2	22	22	31	49	34	75	36	271

（２）グループホーム

支援区分	無	1	2	3	4	5	6	計
男	17	0	9	14	15	2	0	57
女	3	0	1	7	11	3	0	25
計	20	0	10	21	26	5	0	82

年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
男	0	5	3	7	18	13	10	1	57
女	0	0	3	1	6	4	7	4	25
計	0	5	6	8	24	17	17	5	82

心身障害者コロニー診療所の利用状況

	年度		令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
医科	診療日数		224日	234日	239日	201日	200日
	延べ受診者数	利用者	8,186人	7,049人	7,277人	6,621人	5,858人
		その他	65人	62人	14人	8人	7人
		計	8,251人	7,111人	7,291人	6,629人	5,865人
歯科	診療日数		76日	73日	65日	86日	87日
	延べ受診者数	利用者	641人	564人	583人	665人	531人
		その他	0人	0人	0人	0人	0人
		計	641人	564人	583人	665人	531人
計	診療日数		300日	307日	304日	287日	287日
	延べ受診者数	利用者	8,827人	7,613人	7,860人	7,286人	6,389人
		その他	65人	62人	14人	8人	7人
		計	8,892人	7,675人	7,874人	7,294人	6,396人

由利本荘地域生活支援センター

ハイクオリティサービス推進システム（理事長マネジメントレビュー）

①意思決定支援の推進について

・日々の支援の中で利用者が選択する場面を意識して取り入れ、自己決定の尊重に努めた。また、事業会議の中で支援の手引きを読み合わせ、意思決定支援について日々の記録の取り方についても共通認識を図った。

②業務改善の取組と人材育成及び支援体制の充実について

・ＮＩコラボを中心としたＩＣＴ化の活用を順次進めて業務改善に取り組んだ。

・各事業において専門性の獲得のため、外部の専門研修を受講し、部署ごとに伝達することで専門性を深めた。

③地域住民に対する広報や地域との連携について

・新たに保育園児との交流を取り入れることで、生活介護事業とのつながりや児童発達支援事業との連携を深める一助となった。

・町内会長と連絡を取り合い、町内花壇の花植えや防災炊き出し訓練等の行事を来年度から実施することとし、地域との連携を深める道筋を作った。

重点的な取組

①人権尊重と権利擁護の徹底

・虐待防止委員会を「良い支援を考える委員会」と位置づけ、職員の良い支援に目を向けることで、権利擁護を良い視点で捉えるよう努めた。

・グレーゾーンになり得る身近な出来事について、虐待防止対策委員会で話し合うと同時に、全職員を対象としたロールプレイ研修でグループワークを行うことで、人権尊重と権利擁護の意識を高めることができた。

②人材育成

・相談支援員の育成にあたり現場の相談業務の経験が積めるよう、主任相談支援専門員を中心に、相談支援課がチームとなって人材育成に取り組んだ。

③通所事業の利用促進

・生活介護事業においては、利用者ミーティングや日々の支援の中で利用者のニーズを汲み取りながら、希望する活動や行事の提供を行うことで利用者満足度の向上に努めた。その結果、利用者から週の日数を増やしたいとの申し出もあり、利用促進につながった。

・児童のサービスにおいては、地域のニーズに対応すべく、児童発達支援の送迎サービスを始めたところ利用率がアップした。また、放課後等デイサービスについては、２事業所の間のダブル契約を進めるとともに２事業所間での利用調整を行ったことで、利用率の向上が図られた。また、就業・生活支援センターＥサポートとの共同事業により就労準備支援コースの取り組みを進め、保護者から高い評価を得ることができた。

④業務の効率化

・研修評価票や第２回虐待防止チェックリスト、研修アンケート等については、ＩＣＴを活用することで業務の効率化が図られた。

由利本荘地域生活支援センターの利用状況

１．利用者数（契約者数）

単位：人

種別	R7.3.31		R8.3.31		R7.4～R8.3	
	定員	利用者数	定員	利用者数	延利用者	利用者／日
生活介護	20	41	20	42	4,951	18.9
児童発達支援	10	4	10	10	252	3.5
放課後等デイサービス		31		32	2,085	7.2
放課後等デイサービス	10	19	10	25	1,815	7.7

種　　別	R7.4～R8.3延件数
相談支援（児童含）	1,665
障害児等療育支援	91
基幹相談支援センター	821
障害者就業・生活支援センター	2,838

阿桜園

ハイクオリティサービス推進システム（理事長マネジメントレビュー）

①意思決定支援の推進について

・利用者の希望する生活を聞き取るための方法と聞き取り手段、様式記載等の研修と確認を行い、全支援職員への理解を図り進めた。

②業務改善の取組と人材育成及び支援体制の充実について

・業務改善として、起案や文書管理の電子決裁やスケジュール管理、朝の会等ＷＥＢ会議の導入を行い、事務処理や時間効率の改善を図った。
・人権擁護、法令順守、虐待防止に関する研修を重点的に行い、虐待や不適切な支援の再発防止に努めた。支援体制の充足を図るため、企業説明会を頻回に行い募集を行ったが、応募者も少なく充足には至らなかった。

③地域住民に対する広報や地域との連携について

・園広報は年２回発行し、季節ごとにInstagramの更新を行うことができた。ホームページについては、システムが新たに整備されたが、更新の不慣れさもあって、随時更新することができなかった。
・春のレクリエーション、のど自慢大会（夏祭り代替行事）、園祭を行うことができたが、感染症が心配されたため来賓や地域の方々を招待することはできず、各棟での開催や保護者との開催となり、課題が残った。

重点的な取組

①虐待防止の取り組み

・利用者の権利擁護・虐待防止を最重点事項として取組み、職員間の相互意識を高め、基本的なことから学び直す研修を行った。
・意思決定支援の目的を理解し、その手法を学び議論し、利用者個々の意思が反映された生活が送れるよう全支援員に研修を行った。
・地域連携推進会議等により、地域との連携を図りながら権利擁護の体制強化を図った。

②強度行動障害者支援体制の整備

・強度行動障害支援者養成研修の受講を促進し、専門性を獲得した職員による支援の強化を図ることができた。
・日中活動の環境を整え、達成感を感じる事ができる生産活動や創作活動を目指してきたが、感染症等の発生により日中活動ができない状況が続きリカバリーに時間を要した。

③働きやすい職場環境整備

・ICT機器等の導入を検討し、起案や文書管理の電子決裁やスケジュール管理、朝の会等の園内WEB会議の運用を行い、事務処理や時間効率の改善が図られた。

④放課後等デイサービス事業統合によるサービスの充実

・放課後等デイサービス事業統合により、持続的運営と安心安全なサービスの提供、発達段階に応じたグループ毎の活動展開が可能になり保護者や地域へ事業所の魅力、Instagramを用いた情報発信の促進を図ることができた。

⑤施設の改築等計画策定に向けた検討

・将来における改築等を視野に入れ、利用者ニーズに対応した福祉サービスのあり方、質の高いサービスを提供するため、事業や定員の見直しや建設コストを考慮した新たな施設のあり方について、検討委員会で調査、視察、協議を行い検討した。

阿桜園の利用状況

１．利用者数（契約者数）

単位：人

種別	R7.3.31		R8.3.31		R7.4～R8.3	
	定員	利用者数	定員	利用者数	延利用者	利用者／日
施設入所支援(阿桜園)	60	53	60	50	18,026	49.4
施設入所支援（あざくら園）	40	40	40	39	13,829	37.9
生活介護(阿桜園)	60	68	60	66	14,490	39.7
生活介護（あざくら園）	40	41	40	42	10,028	27.5
福祉型障害児入所	5	3	5	4	1,242	3.5
共同生活援助（GH希望Ⅰ）	5	5	5	4	1,477	4.1
共同生活援助（GH希望Ⅱ）	5	5	5	5	1,784	4.9
短期入所	4	－	4	－	221	0.7
放課後等デイサービス	10	18	15	20	2,690	11.3

種　　別	R7.4～R8.3延件数
相談支援（児童含）	725
日中一時支援	361
障害児等療育支援	160

２．利用者の状況（令和８年３月３１日現在）

（１）施設入所

支援区分	無	1	2	3	4	5	6	計
男	0	0	0	0	9	16	39	64
女	0	0	0	0	3	5	17	25
計	0	0	0	0	12	21	56	89

年齢構成（障害児入所・施設入所）

年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
男	2	3	10	22	15	6	7	0	65
女	4	4	5	5	6	2	2	0	28
計	6	7	15	27	21	8	9	0	93

（２）グループホーム

支援区分	無	1	2	3	4	5	6	計
男	1	0	0	3	1	0	0	5
女	1	0	0	1	1	1	0	4
計	2	0	0	4	2	1	0	9

年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
男	0	1	1	1	2	0	0	0	5
女	1	0	0	2	1	0	0	0	4
計	1	1	1	3	3	0	0	0	9

湯沢雄勝広域市町村圏組合　やまばと園

ハイクオリティサービス推進システム（理事長マネジメントレビュー）

①意思決定支援の推進について

・法人ワーキンググループによる、利用者の希望する生活を聞き取るための方法と手段等の研修と確認を行い、職員への理解を図り進めた。

②業務改善の取組と人材育成及び支援体制の充実について

・業務改善の一環として、服薬事故を防止するため、システムの試験導入を行い、事故防止の一助として一定の成果が見られた。
・実践や研修を通しながらＯＪＴにて育成を行い、日課の見直しを含めた支援体制の検討を行った。

③地域住民に対する広報や地域との連携について

・園広報を年１回発行している。ホームページの更新は、タイムリーに行うことができず、課題を残した。
・６年ぶりとなる三大行事を利用者・保護者、地域の方々と行うことができ、参加された皆さんと久しぶりの開催を喜び合えることができた。

重点的な取組

①質の高いサービス提供

・新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症対策を強化し、予防に努めた。急性呼吸器感染症の集団感染が発生したものの、早期の対応により重症化を防ぐことができた。
・就労継続支援Ｂ型事業として、利用者のニーズに応える事業所運営を目指したが、新規作業の開拓が進まず、工賃倍増の達成には至らなかった。反面、就労活動と生活支援のサービスを利用者が選択できるよう体調や精神面に配慮したサービス提供を行った。

②利用者満足度の向上と人材育成

・春のスポーツレクリエーション、夏祭り、秋の園祭と保護者、地域の方々と一緒に楽しむことができた。感染症等の影響により、各寮での行事が度々中止となり、気軽な外出の機会を増やすことができなかった。
・地域での行事や本人活動での外作業への参加等には積極的に関わることができ、利用者が地域の一員であることを感じることができた。

③地域貢献

・地域活動の一環として、定期的に来られるボランティアの方々や職員と園周辺の清掃を行い、環境美化活動等を行った。また、地域の方々の厚意により、毎年やまばと農園を開催し、土にふれて花や食物を育てる活動を通じ、心穏やかに潤いを持った生活につなげることができた。
・地域の方々からの行事への参加は、以前ほど多くはなかったが、一歩目としてのつながりは出来たと感じられた。
・放課後等デイサービス、グループホーム、施設と各地域と連絡を取り連携強化を進めることができた。

やまばと園の利用状況

1.利用者数（契約者数）

単位：人

種別	R7.3.31		R8.3.31		R7.4～R8.3	
	定員	利用者数	定員	利用者数	延利用者	利用者／日
施設入所支援	60	59	60	60	19,827	54.3
生活介護	50	75	50	74	15,500	42.5
就労継続B型	10	8	10	10	1,848	6.9
共同生活援助（GHばってりー）	5	5	5	5	1,747	4.8
短期入所	8	－	8	－	629	1.7
放課後等デイサービス	10	17	10		1,942	8.2

種　　別	R7.4～R8.3延件数
相談支援（児童含）	440
日中一時支援	210
障害児等療育支援	238

２．利用者の状況（令和８年３月３１日現在）

（１）施設入所

支援区分	無	1	2	3	4	5	6	計
男	0	0	0	0	11	12	17	40
女	0	0	0	1	1	9	9	20
計	0	0	0	1	12	21	26	60

年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
男		4	11	11	12	1	0	1	40
女		2	2	7	4	1	4	0	20
計	0	6	13	18	16	2	4	1	60

（２）グループホーム

支援区分	無	1	2	3	4	5	6	計
男	0	0	0	1	0	4	0	5
女	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	1	0	4	0	5

年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
男	0	1	2	2	0	0	0	0	5
女	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	1	2	2	0	0	0	0	5

障害者支援センター御所野

ハイクオリティサービス推進システム（理事長マネジメントレビュー）

①意思決定支援の推進について

・日々のケースワークや検討会議、満足度調査等で利用者の希望を聴き取り、寄り添うことで一人ひとりが希望する生活の意向確認、課題の把握に努めた。

②業務改善の取組と人材育成及び支援体制の充実について

・排泄記録表の電子化、生成ＡＩの活用、ＮＩコラボの機能を活用した情報共有など、適切なデバイスを選別し業務効率を向上させた。障がい特性に関する研修やシミュレーション訓練等、実践的な手順を学ぶことで支援体制の充実に努めた。

③地域住民に対する広報や地域との連携について

・広報誌以外にも「御所野だより」を作成し情報を発信、施設周回道路の清掃活動を年2回実施し、地域の一員としての施設の理解に繋げた。地域連携推進会議では委員からの助言を受け、特殊浴槽開放のパンフレットの設置場所を増やしＰＲに努めた。

重点的な取組

①職員の資質向上と職員研修の充実

・外部講師を招いた障がい特性（認知症の基礎や具体的な事例）に関する研修やグレーゾーン、アサーティブコミュニケーション研修、ワールドカフェ方式の研修を実施し、職員間の意見の共有に努め、利用者一人ひとりの特性に応じた支援の質の向上に努めた。

②安定した経営基盤の確立

・高齢利用者の介護保険施設への移行について、本人の状態や希望を踏まえた適切なサービス内容を検討した。短期入所および日中一時支援を継続的に受け入れているが、短期入所利用希望者が特に多く日程調整することで安定的な利用を図った。

③ＩＣＴ活用による業務効率化と情報共有の強化

・スマートフォンやタブレット端末の導入に加え、生成ＡＩの活用、排泄記録表の電子化により、ペーパーレス化を実現。昨年度から試行してきたデバイスについて継続するものと中止するものを選別したことで業務効率が向上した。ＮＩコラボの機能を活用することで迅速な情報共有に努めた。

④日中活動支援の充実

・日々の創作活動や利用者個々の要望に応じた個別外出の他、全体での行事としてベイブレードやアニマルセラピー、ボッチャ、県庁の出前講座（ＶＲ体験）なども取り入れることで活動の充実を図った。

⑤地域との連携強化

・ボランティアや実習生の継続的な受け入れ、近隣施設のイベントへの参加、広報やホームページによる広報活動を通じて地域住民との交流を深めた。地域貢献活動として特殊浴槽の開放、施設周回道路の環境美化活動も継続して実施した。

障害者支援センター御所野の利用状況

１．利用者数（契約者数）

単位：人

種別	R7.3.31		R8.3.31		R7.4～R8.3	
	定員	利用者数	定員	利用者数	延利用者	利用者／日
施設入所支援	40	40	40	40	13,883	38.0
生活介護	40	42	40	43	10,833	29.7
短期入所	2	53	2	2	592	1.6

種　　別	R7.4～R8.3延件数
日中一時支援	70

２．利用者の状況（令和８年３月３１日現在）

（１）施設入所

支援区分	無	1	2	3	4	5	6	計
男				1	10	9	5	25
女					2	7	6	15
計	0	0	0	1	12	16	11	40

年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
男		2	4	2	3	9	5		25
女			1	4	3	6	1		15
計	0	2	5	6	6	15	6	0	40

秋田県点字図書館

重点的な取組

①視覚障がい者が利用しやすい図書貸出

・令和７年度末の個人登録者数は７１４名である。
・貸出数は点訳図書が３,２７タイトルで前年度比で４％減、デイジー図書は５,２２５タイトルで１１％の減、音訳図書は４５タイトルで１３％増であった。
・定期刊行物は３９タイトルを延べ９,０００名に提供した。
・貸出数は全般的に減少傾向である。録音図書は多くの他事業所が、製作と貸出を終了したことも影響して微増。デイジー図書の１割以上の減少は、前年度、全国の関係機関が連携するサピエ図書館のシステム停止に伴い、一時的に１回の貸出数を増加した措置の反動と考えられる。
・サピエ図書館からのダウンロード対応が増えており、ＳＤカードの利用を含めた利用者の選択肢が拡大していると言える。

②図書等の製作を担う人材の確保

・県内各市町村や関係機関を通じて奉仕員養成講座事前説明会の告知を行った。当日は２８名の参加者があり、希望者を選考の結果、点訳４名、音訳６名を受講生として決定した。計１０名の受講生は講座修了後、全員が当館の奉仕員として登録できた。
・二年次研修等のフォローアップを行い、スキルアップとモチベーションの維持につなげた。
・図書の製作実績は多少の増減はあるが目標どおりであった。図書によっては微減もあるが専門書などが多くなったことも要因と思われる。

③状況に応じた適切な情報提供と利用の拡大

・蔵書の貸出の他、ＪＢニュース、点字図書館だよりの提供を継続した。点字図書館だよりの大活字版は、小さな文字が読みにくい方のための冊子で、貸出の件数には反映されないが年々利用者が増えており、将来に不安を抱える方にとって重要な情報ツールとなっている。

④情報機器等に関する相談対応

・相談に訪れる方に随時対応し、点字図書館の利用の他、関係機関や業者につなげた。館内には視覚障がい者のための情報機器や生活グッズを展示してあり、操作や入手方法について説明している。
・県視覚障害者福祉協会の令和７年度わくわく文化祭の共催として、上記の物品を展示するとともに説明を行った。

⑤障がいへの理解促進と点字普及活動等

・小学校の点字学習（４校７８名）へ延べ６名の登録奉仕員を派遣した。また小学生の体験学習（１校１３９名）を受け入れた。
・中学生の職場体験（２校９名）、視覚支援学校のインターンシップ１名を受け入れた他、県内ボランティアグループの勉強会や技術指導等の依頼に対しては職員や登録奉仕員を派遣した。
・県内のイベントにおいて「プチッと点字体験」（３件２２名）を実施した。
・「小中学生向け障がい理解教室(点字学習)」（小学校６校１９１名）に延べ１８名の登録奉仕員を派遣した。

点字図書館の利用状況

1. 図書受入状況　　令和7年4月～令和8年3月

区分	点字図書		テープ録音図書		デイジー図書		テキストデイジー		合　計		タイトル構成比
受　入　先	タイトル	冊数	タイトル	冊数	タイトル	冊数	タイトル	冊数	タイトル	冊数	
厚生省委託	39	87	0	0	62	62	0	0	101	149	24.40%
自館制作	137	436	0	0	127	127	39	39	303	602	73.19%
複製	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
購入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
寄贈	0	0	0	0	10	10	0	0	10	10	2.42%
計	176	523	0	0	199	199	39	39	414	761	100.00%

2. 分類別貸出状況

区分／受入		点字図書（含、FD）		録音図書（テープ）		音声デイジー（CD）		合計		タイトル構成比
		タイトル	冊数	タイトル	冊数	タイトル	冊数	タイトル	冊数	
0	総記	2	6	0	0	27	27	29	33	0.52%
1	哲学	8	24	1	4	134	134	143	162	2.55%
2	歴史	4	17	3	23	108	108	115	148	2.05%
3	社会科学	6	18	0	0	160	163	166	181	2.97%
4	自然科学	10	21	4	26	170	170	184	217	3.29%
5	技術	6	13	0	0	38	38	44	51	0.79%
6	産業	3	10	0	0	19	19	22	29	0.39%
7	芸術	7	22	0	0	78	79	85	101	1.52%
8	言語	0	0	0	0	29	29	29	29	0.52%
9	文学	281	1,043	37	302	4,462	4,466	4,780	5,811	85.40%
合計		327	1,174	45	355	5,225	5,233	5,597	6,762	100.00%

秋田県聴覚障害者支援センター

重点的な取組

①センター及び意思疎通支援派遣事業の周知

・３月２０日に「第５回ふれあいまつり」を開催し、センター事業である意思疎通支援事業のＰＲを行った。また、聴覚障がいへの理解促進と地域住民との交流を図る機会となった。
・情報発信の一環として、「東京２０２５デフリンピック」応援イベントの字幕入り動画を作成したほか、ホームページに聴覚障がい者関連のイベント情報等を掲載し、情報提供に努めた。
・地域で暮らす聴覚障がい者への相談支援として巡回相談を計画していたが、施設入所者からの相談要請に対応するため、施設訪問へと変更して実施した。日頃、手話によるコミュニケーション機会が少ない施設利用者にとって、手話に触れる有意義な機会となった。
・意思疎通支援者の報酬額改定について関係者間で協議を行ったが、予算上の課題もあり、継続協議とした。

②意思疎通支援者の養成

・意思疎通支援者養成事業として、次のとおり実施した。
　手話通訳者養成研修Ⅱ：受講者８名　養成研修Ⅲ：受講者８名
　要約筆記者養成講座（パソコン）：４名（うち修了３名）
　盲ろう者向け通訳介助員養成講座：４名　潟上市で開催
・手話通訳者全国統一試験の合格を目指し、受験対策講座を実施した。また、手話通訳者養成研修会修了後、一定期間が経過した再受験者を対象にフォローアップ学習会を開催し、合格者増加に努めた。
・手話通訳者養成講師の育成を目的として、リーダー養成研修会へ手話講師４名を派遣した。
・手話養成研修の新カリキュラムへの対応を図るため、関係団体および講師と調整を進めた。
・全国統一試験結果
　手話（１２月６日実施）　２０名受験　合格者なし
　要約筆記（２月１５日実施）　５名受験
（手書き）１名（パソコン）１名　合計２名合格

③災害時情報拠点施設としての役割整理

・災害時に情報拠点としての役割を果たすため、センターとして実施可能な支援内容について協議・検討を行った。
　近年多発する気象災害に備え、意思疎通支援者等を対象に気象予報士による講演を実施し、日頃の備えや災害発生時の支援のあり方について学んだ。

④他県の聴覚情報提供施設の視察

・東北地域の情報提供施設の視察を計画していたが、各事業担当者によるオンラインでの情報交換に変更し、その分を全国研修会への参加に振り替えて実施した。

聴覚障害者支援センターの利用状況

１．相談事業　　（単位：件）

	相談件数	相談種別			相談内訳							
		電話・ＦＡＸ	来所	訪問等	施設	生活	福祉サービス	年金・手当	医療・保健	職業	補装具	その他
４月	17	5	7	5	1	5	0	0	0	1	1	9
５月	14	4	9	1	0	9	0	0	1	0	0	4
６月	8	1	7	0	0	8	0	0	0	0	0	0
７月	17	3	12	2	0	7	0	0	0	0	0	10
８月	14	1	11	2	0	10	0	0	0	0	0	4
９月	11	2	6	3	0	6	0	0	0	0	0	5
10月	15	1	13	1	0	9	2	0	0	0	0	4
11月	7	0	5	2	0	3	0	0	0	0	0	4
12月	18	0	14	4	0	14	0	0	0	0	0	4
１月	11	0	11	0	0	6	0	0	0	0	0	5
２月	4	0	4	0	0	2	0	0	0	0	0	2
３月	22	1	11	0	0	8	0	0	0	0	0	14
合計	158	18	110	20	1	87	2	0	1	1	1	65

２．手話通訳者派遣事業
（秋田県登録者　２５名）

≪ 県 事 業 ≫

活動内容	件　数	時間外	来　所
通　　訳	186	11	0
相談・打合等	5	0	2
会議等の出席	0	0	0
合　　計	191	11	2

※時間外、来所件数は再掲。

≪ 市町村事業 ≫

活動内容	件　数	時間外	来　所
通　　訳	131	9	0
相　談　等	0	0	0
会議等の出席	0	0	0
合　　計	131	9	0

３．要約筆記者派遣事業
（秋田県登録者　３０名）

≪ 県 事 業 ≫

活動内容	件　数	時間外	来　所
通　　訳	110	7	0
相談・打合等	0	0	0
会議等の出席	0	0	0
合　　計	110	7	0

※時間外、来所件数は再掲。

≪ 市町村事業 ≫

活動内容	件　数	時間外	来　所
通　　訳	12	0	0
相　談　等	0	0	0
会議等の出席	0	0	0
合　　計	12	0	0

４．盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業

区　　分	生活相談	コミュニケーション訓練	第三者との対話	会議等出席	講習会等出席	代書代読	行事等参加	日常生活	医療機関	官公庁	交流会参加	レク・スポーツ	その他	合計
４月	0	1	0	0	0	3	1	3	2	1	0	1	0	12
５月	0	0	2	0	0	2	1	4	2	0	0	0	0	11
６月	0	0	0	0	6	1	1	5	4	0	0	2	0	19
７月	0	0	0	0	6	1	1	7	5	0	0	0	0	20
８月	0	1	0	0	0	1	2	6	2	0	0	1	0	13
９月	0	2	0	0	0	2	1	4	3	0	0	4	0	16
10月	0	1	0	0	4	1	0	5	5	0	0	0	0	16
11月	0	0	0	0	0	2	2	6	3	1	0	0	0	14
12月	0	0	2	0	0	1	1	6	5	0	0	0	0	15
１月	0	1	0	0	0	1	0	1	4	0	0	0	0	7
２月	0	0	0	0	0	4	0	0	2	0	0	0	0	6
３月	0	1	0	0	0	1	5	1	3	0	0	0	0	11
合　計	0	7	4	0	16	20	15	48	40	2	0	8	0	160

Ⅲ　公益的な取組

地域における公益的な取組

施設名（法人　事務局）

事業名	秋田たすけあいネットあゆむとの共同活動
事業概要	＜目的＞ ・ＮＰＯ法人との共同活動を通じ、地域が真に求める福祉ニーズを法人の活動にフィードバックする。 ＜対象者＞ ・共同活動であるためＮＰＯ法人のコンセプトに合わせた「助けを求める人」全てを対象とする。 ＜内容＞ ・秋田たすけあいネットあゆむとフードボックス設置契約をしている秋田市内３２店舗のコンビニエンスストアへ定期的な回収作業を中心に行う。また、引き続き中央地区老人福祉総合エリアに設置したフードボックスによる食料品支援も行う。
年間事業内容	＜広域的なフードボックス回収作業＞ ・月１回、秋田市内ファミリーマート設置のフードボックスの確認と回収作業を行い、回収した物品を秋田たすけあいネットあゆむへ届ける。
関係機関や団体等との連携状況	＜関係機関＞ ・ＮＰＯ法人　秋田たすけあいネットあゆむ ＜連絡調整＞ ・ＮＰＯ法人とは、フードボックス設置店舗からの回収依頼状況、店舗開店や新たなフードボックス設置契約店の状況確認、関係機関が発行するパンプレットの補充について適宜連絡調整を行った。
決算額	０円
事業担当職員	所属（　経営管理課　）　氏名（　東海林　航　）
事業の総評	・秋田県中央地区老人福祉総合エリアに設置したフードボックスに寄付された缶詰食品、乾麺、飲料品、調味料等延べ３７品を納品し貢献した。 ・秋田市内ファミリーマートに設置されているフードボックスに寄付された食料品を毎月１回計１２回、紙袋計５９袋程度回収、納品し貢献した。 ・共同活動先のＮＰＯ法人から事業団以外のボランティアによるフードボックスの回収を再開した旨話を受けたが事業団の回収を含め月２回の回収を継続したいとの要望があったため、次年度も本活動を継続して取り組むことを相互確認した。

地域における公益的な取組

施設名（高清水園）

事業名	地域生活サービス利用者交流事業
事業概要	＜目的＞ ・地域における公益的な活動の一環として、屋外でクリーンアップ活動を行う。活動を通して施設の近隣住民との交流と地域への貢献を図り、相互に理解を深めることを目的とする。 ＜対象者＞ ・高清水園利用者と職員、地域住民（近隣の町内会）、ボランティア参加者 ＜内容＞ ・春と秋の２回開催し、高清水園周辺やグループホーム周辺の道路脇や歩道のゴミ拾い、草取り、落ち葉拾いなどを地域住民やボランティア参加者と協力して行う。
年間事業内容	【高清水園周辺のクリーンアップ】 予定日：令和7年6月22日（日）13:30～ 内　容：高清水園周辺のクリーンアップ活動 【グループホーム周辺のクリーンアップ】 予定日：令和7年11月23日（土）10:00～ 内　容：グループホーム周辺のクリーンアップ活動 両日ともクリーンアップ予定地区にクマ出没のため中止
関係機関や団体等との連携状況	・日本赤十字東北看護大学の生徒ボランティアサークルとグループホーム周辺のクリーンアップでは町内会長と連絡を取り合い計画を進めた。
決算額	０円
事業担当職員	所属（　支援課　）　氏名（　佐藤　啓太　）
事業の総評	・関係各所と連絡を取り合いながらすすめていたが、地域周辺にクマの出没が頻回になり、参加者の安全優先のため開催を断念した。

地域における公益的な取組

施設名（秋田県心身障害者コロニー）

事業名	ふれあい交流事業
事業概要	＜目的＞ ・地域で生活する障がいを持つ方やひきこもりの方々が余暇時間を有効に活用し、関わりを深めながら、地域社会での中で安心して生活できる環境を作れるよう交流事業を推進していく。 ＜対象者＞ ・由利本荘市、にかほ市在住で障がい等をお持ちの方、その家族の方々。 ＜内容＞ ・イベント交流～利用されている方々のアンケートを検証し、即売会での交流や専門的知識のある方々の協力を得ながら、楽しんで頂けるイベントを提供し、地域の方々との交流を深める。 ・関係機関（由利本荘市・市社協等）と連携し、参加者の掘り起こしを重点的に行い参加者の拡大を図る。
年間事業内容	・第１回まごころフェア（４／２６）～約１００名 ・ガーデニング教室～８名 ・ミュージックセラピー～２１名 ・第２回まごころフェア（９／２０）～約１００名 ・３Ｂ体操～７名 ・第３回まごころフェア（１１／２９）～約１００名 ・１２月から３月の期間は感染症流行期の為、開催を控える。 ・次年度イベント案内発送（３月）
関係機関や団体等との連携状況	・由利本荘市・にかほ市への情報提供及び情報共有。 ・由利本荘市・にかほ市社会福祉協議会との事業連携。 ・法人内施設との連携。 ・地域への周知。（新聞折込等の活用）
決算額	６６，３２６円
事業担当職員	所属（サービス調整課）　氏名（　伊藤　真　）
事業の総評	・西目道の駅を会場とした、「まごころフェア」と題した季節ものの即売を３回実施し、地域の方々からも好評を得た。新たな一般客への施設ＰＲとなった。 ・即売以外のイベントでは内容のマンネリ化、参加者の固定化はあるものの、参加者からは好評を得られている。

地域における公益的な取組

施設名（由利本荘地域生活支援センター）

事業名	防災炊き出し訓練の実施
事業概要	＜目的＞ ・由利本荘市社会福祉協議会が実施する防災炊き出し訓練を共催し、地域住民とともに災害時における地域活動について学ぶ機会とする。 ＜対象者＞ ・地域住民及び関係機関の職員 ＜内容＞ ・「防災から考える地域づくりに関する研修会」と題して講演とパネルディスカッションを実施した。 ・由利本荘市社会福祉協議会及び関係機関との共催により、由利本荘市社会福祉協議会本所を避難場所に見立てて、炊き出しデモンストレーションを地域住民及び関係機関の職員で体験した。
年間事業内容	・５月、７月、８月に担当者打ち合わせ会を実施 ・日時：令和７年１０月１８日（土）開催 ・参加者：２８名 講師・パネリスト４名 地域住民９名 センター児童利用者・職員４名 関係機関職員１１名 ・内容 ①講演「防災から考える地域づくり」 ②パネルディスカッション「災害発生時における地域づくり」 ③炊き出しデモンストレーション・試食 （豚汁・アルファ化米）
関係機関や団体等との連携状況	・由利本荘市社会福祉協議会及び町内会長、関係機関と共催し、企画・準備段階から連携を図った。
決算額	０円
事業担当職員	氏名（　工藤　摂子　）
事業の総評	・関係機関がそれぞれの立場でできることを協力して実施し、参加した職員の防災意識の向上にもつながった。 ・今後は由利センターを会場に、センターがある町内会の方々と実施する予定としており、災害時における地域の取組に貢献することが期待される。

地域における公益的な取組

施設名（由利本荘地域生活支援センター）

事業名	作品展示ブースの設置
事業概要	＜目的＞ ・施設玄関のスペースを、地域住民や特別支援学校生徒の展示ブースとして開放する。 ＜対象者＞ ・由利本荘市・にかほ圏域在住の障がい者、特別支援学校生徒 ＜内容＞ ・玄関前・外のスペースに展示ブースを設け、地域の障がい者の作品や特別支援学校生徒の生産品の展示の場とした。
年間事業内容	・施設玄関スペースを展示ブースとして開放。 ・冬休み期間中に、「ミニ学校展」として、ゆり支援学校の生徒の作品を展示した。 ・生活介護利用者や、就業・生活支援センターＥサポート登録者の作品も展示し、センターを訪れる来客の方々に作品を持ち帰ってもらった。
関係機関や団体等との連携状況	・ゆり支援学校からの依頼により展示を行った。学校関係者が施設を来所し、展示品の入れ替えを行いながら、情報の共有を図った。
決算額	１２，９５３円
事業担当職員	所属（　管理支援課　）　氏名（　松井　美代子　）
事業の総評	・地域在住者の生産品の展示については、その方々と地域の接点となり、地域生活の充実に向けた足がかりの役割を担うことができた。また、作品を持ち帰ってもらうことで、作成者の励みとなった。 ・ゆり支援学校の展示は、学校との連携により、生徒の活動状況を紹介することができた。

地域における公益的な取組

施設名（阿桜園）

事業名	地域生活交流活動事業
事業概要	＜目的＞ ・地域での余暇活動の支援が必要な障がい児者等を対象に日中活動の機会を提供し、生活の質及び社会生活力の向上を図る。 ＜対象者＞ ・地域の余暇活動への支援が必要な障がい児者、ひきこもり状態にある方等 ＜内容＞ ・第１回　スポレク教室 ・第２回　陶芸教室 ・第３回　ドライブ活動 ・第４回　わくわく科学実験教室 ・第５回　カフェ　活動お疲れ様会
年間事業内容	・第１回　５月２５日（日）スポレク教室 ６名参加　担当職員４名（運転含）、講師２名 ・第２回　７月２７日（日）陶芸教室 ６名参加、担当職員４名（運転含）、講師１名 ・第３回　９月２８日（日）ドライブ活動 ※Ｏ－１５７感染対応等に伴い中止 ・第４回　１０月２６日（日）わくわく科学実験教室 ５名参加、担当職員４名（運転含）、講師２名 ・第５回　２月２２日（日）カフェ　活動お疲れ様会 ６名参加、担当職員３名(運転含)
関係機関や団体等との連携状況	・余暇活動の内容について、関係機関、講師等と事前に情報共有を行うとともに、安全に実施するために必要に応じて参加者が利用している事業所等との連携を図った。
決算額	３７，３６７円
事業担当職員	所属（管理課）　氏名（　髙橋　小夜子　）
事業の総評	・昨年度、実施したアンケートの要望をもとに活動内容を計画し、参加者のみなさんに楽しんでいただくことができた。９月は園内での感染症発生に伴い活動中止となったが、感染症予防対策を講じた事で４回は予定通りに実施できた。 ・新たにメール一斉送信ツールを導入し、参加者、ご家族との迅速な連絡・調整が図れた。

地域における公益的な取組

施設名（湯沢雄勝広域市町村圏組合やまばと園）

事業名	交流サロン　ホップ！
事業概要	＜目的＞ ・休日の余暇時間に、様々な体験の場を提供することで余暇時間の充実を図り、自らの余暇を楽しむことができるよう支援する。また、人と人を繋ぎ、友達づくり・仲間づくりの機会を提供、制度や地域の取組み等について、情報共有の機会を提供することを目的とする。 ＜対象者＞ ・湯沢雄勝圏域に居住している障がいのある方 ＜内容＞ ・第１回　ドライブ（あやめ祭り見学) ・第２回　簡単うちわ制作と菓子を楽しむ会 ・第３回　グラウンドゴルフ ・第４回　クリスマスリース制作 ・第５回　スポーツレクリエーション
年間事業内容	・第１回　６/２２(土)ドライブ（あやめ祭り見学) 参加者4名 職員２名 ・第２回　８/１６(土)簡単うちわ制作と菓子を楽しむ会 参加者２名　民生委員３名 職員２名 ・第３回　１０/２５(土)グラウンドゴルフ 参加者４名 民生委員３名　職員２名 ・第４回　１２/２０(日)クリスマスリース制作 参加者１名 民生委員４名 職員２名 ・第５回　２/２１(土)スポーツレクリエーション 参加者３名 民生委員４名 職員２名
関係機関や団体等との連携状況	開催案内通知について、圏域内の相談支援事業所、就労継続支援事業所、グループホーム、基幹相談支援センター及び社会福祉協議会に情報提供及びポスター掲示等の依頼をしている。
決算額	１９，７００円
事業担当職員	所属（　支援課　　）　氏名（藤原　文子　）
事業の総評	・今年度も民生委員の方の協力を得ながら交流に機会を持つことができ、参加者からも好評であった。夏場や降雪時期は参加が難しいとの要望もあり次年度は開催時期の見直しを行い、より多くの参加者が増えるよう取り組んでいきたい。

地域における公益的な取組

施設名（障害者支援センター御所野）

事業名	特殊浴槽の開放他
事業概要	＜目的＞ ・地域で生活していて、自宅での入浴に困難を抱えている方に安心して入浴できる場を提供する。 ・施設周回道路のゴミ回収を行い、御所野地域の環境整備に貢献する。 ＜対象者＞ ・特殊浴槽の開放～秋田市在住の重症心身障がい児者、他希望者。 ＜内容＞ 特殊浴槽の開放 ・年間を通じ、水曜日・土曜日で希望者を募る。 ・ホームページを活用し募集する。 ・浴槽の形態（ミスト浴または、個人で入れる浴槽）については希望者の身体状況により決める。 ・体験希望者の送迎は家族とする。 ・入浴後に簡単なアンケートに応じてもらい、ニーズ等を探る。 環境整備 ・中央エリア内の施設へのアクセス道路沿いのゴミ拾い。
年間事業内容	・特殊浴槽の開放 通年（毎週水、土曜日）募集し、日程については家族と調整を図った。 ７/１９（土）女性1名利用 ・環境整備 ５/１７（土）、１０/１１（土）にセンター周辺および県道の歩道部分の清掃活動（ゴミ拾い）を実施した。
関係機関や団体等との連携状況	・広報活動として、秋田市内の支援学校、近隣の事業所２ヶ所にパンフレットの設置を依頼。また、秋田市障がい者総合支援協議会相談支援部会を通じて市内の相談支援事業所２５事業所へパンフレットを配布した。また、イオンモールや市民サービスセンター、御所野交流センターにも設置を依頼している。
決算額	４，５６１円
事業担当職員	所属（支援課）　氏名（菊地　奈緒）
事業の総評	・特殊浴槽の開放について、積極的に広報活動したが実際の利用まで結びついたのは1件のみであった。「需要はあると思われる」との反応もあったため、今後もニーズの理解を深めていく必要がある。 ・清掃活動はセンターや県道周辺のゴミ拾いを2回実施した。御所野地域の一員として施設の存在を知ってもらう良い機会となっているが、熊の出没も心配されることから、時期等の検討を要する部分もある。

地域における公益的な取組

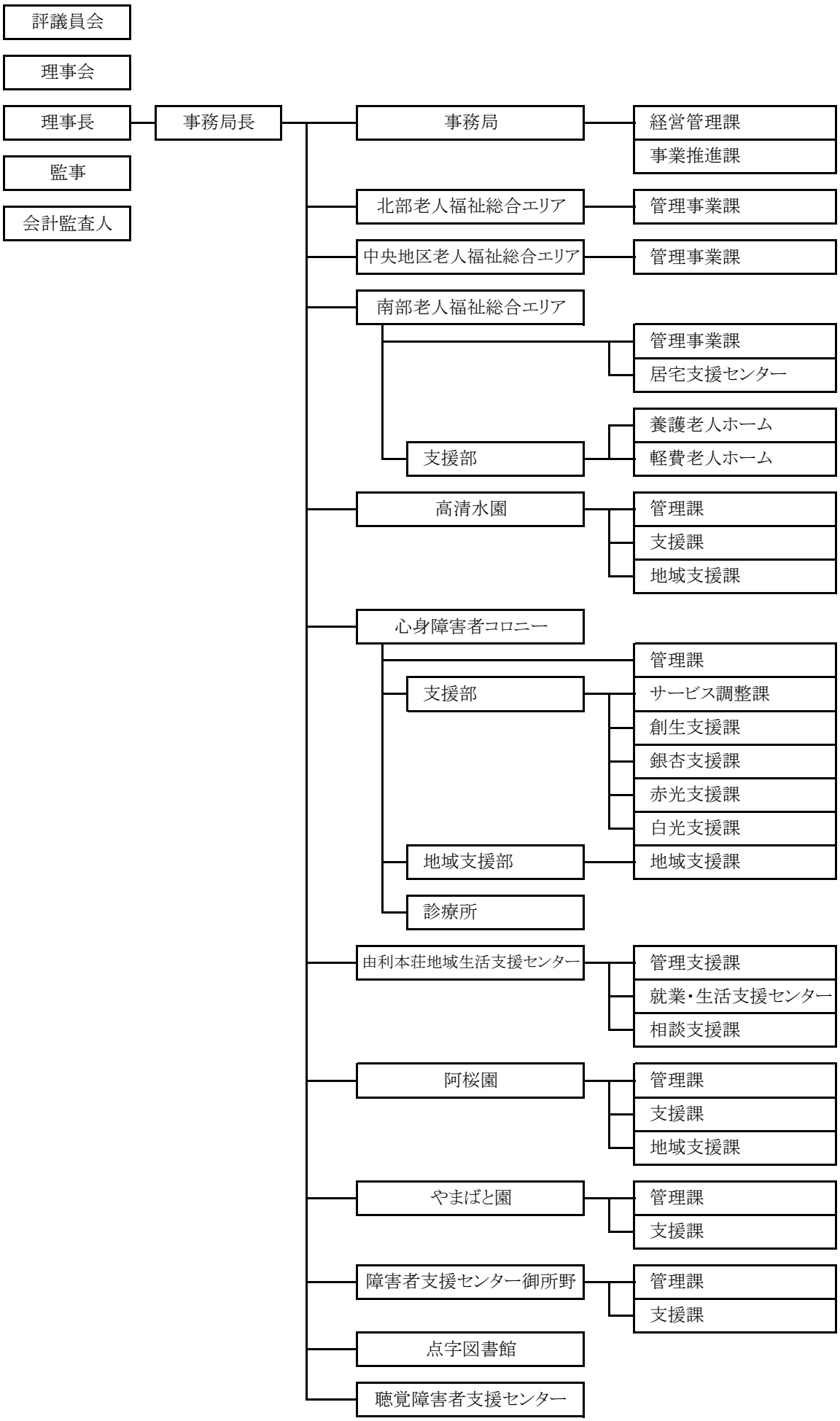
施設名（秋田県点字図書館）

事業名	・小学生向け「点字体験学習」 ・一般県民向け「プチッと点字体験」
事業概要	＜目的＞ ・障がいの理解を図る学習活動（小学生の点字体験学習等）や県民向けの点字普及活動の行事の企画や講師派遣を行い、障がいへの理解促進と点字普及活動等に努め、点字を知る晴眼者を増やし、視覚障がい者とのコミュニケーションや支援することができる県民を増やすことを目的に、当館で可能な活動を実施する。 ＜対象者＞ ・県民全般 ＜内容＞ 図書館や学校等を活動場所とし、小学生の点字体験学習や県民向けの点字普及活動の企画や講師派遣。 ①点字五十音表を用いて点字の構成を学習 ②簡易点字器を使用して栞や名刺作り、テプラテープに名前等を打ち名前シールを作成する。
年間事業内容	・７/２５「夏休み点字図書館探検」 子供１１名　大人　６名 ・８/１　「夏休み点字図書館探検」 子供　５名　大人　３名 ・９/２２「心いきいき芸術・文化祭」　６名 ・９/２８「情報機器・日常生活用具展示体験会」 ９名 ・６月～１２月「障害理解教室事業への派遣」
関係機関や団体等との連携状況	・秋田県障害福祉課 ・秋田県視覚障害者福祉協会 ・秋田県障害者社会参加推進センター ・秋田県聴覚障害者支援センター ・県内小学校 ・県内各市町村
決算額	０円
事業担当職員	所属（　　）　氏名（　岩田　陽子　）
事業の総評	・７年度の点字図書館探検の参加者は増加した。曜日の選定、県内各地のイベントリサーチは重要と感じた。 ・他のイベントとの兼ね合いで参加できなかったイベントもあった。点字の理解もさることながら、障がい理解につながるものであり大小問わず継続するべきである。

資　　料

１．組織

令和8年3月31日現在



２．施設の概要

令和8年3月31日現在

種別	施設名	所在地	主なサービス	定員	備考
老人福祉総合エリア	秋田県北部老人福祉総合エリア	大館市	コミュニティセンター		指定管理
	秋田県中央地区老人福祉総合エリア	秋田市	コミュニティセンター		指定管理
	秋田県南部老人福祉総合エリア	横手市	コミュニティセンター		指定管理
			養護老人ホーム	50	
			軽費老人ホーム（特定含）	50	
			居宅支援センター		
			生きがい創作館		指定管理
障害児者支援施設	高清水園	秋田市	施設入所支援事業	88	
			生活介護事業	92	
			グループホーム（６ヵ所）	28	
	秋田県心身障害者コロニー	由利本荘市	施設入所事業	340	
			生活介護事業	350	
			就労継続支援事業Ｂ型	60	
			グループホーム（１８ヵ所）	91	
			診療所		
	由利本荘地域生活支援センター	由利本荘市	生活介護事業	20	
			児童発達支援事業	10	のびのび
			放課後等デイサービス		
			放課後等デイサービス	10	ぐんぐん
	阿桜園	横手市	施設入所支援事業	100	
			生活介護事業	100	
			福祉型障害児入所施設	5	
			放課後等デイサービス	15	さくらっこ
			グループホーム（２ヵ所）	10	
	湯沢雄勝広域市町村圏組合やまばと園	湯沢市	施設入所支援事業	60	指定管理
			生活介護事業	50	
			就労継続支援事業Ｂ型	10	
			放課後等デイサービス	10	
			グループホーム（１ヵ所）	5	
	障害者支援センター御所野	秋田市	施設入所支援事業	40	
			生活介護事業	40	
視聴覚障害者情報提供施設	秋田県点字図書館	秋田市	視覚障がい者への情報提供		指定管理
	秋田県聴覚障害者支援センター	秋田市	聴覚障がい者への情報提供		県受託

３．施設のサービス利用状況

利用者は各年度３月３１日現在の契約者数　件数は年間の延べ件数

障害者

１　介護給付

施設名	施設入所				生活介護				短期入所			
	定員		利用者		定員		利用者		定員		利用者	
	Ｒ６	Ｒ７	Ｒ６	Ｒ７	Ｒ６	Ｒ７	Ｒ６	Ｒ７	Ｒ６	Ｒ７	Ｒ６	Ｒ７
高清水園	88	88	80	76	92	92	88	83	8	8	11	8
心身障害者コロニー	340	340	290	271	350	350	285	269	5	5	12	42
由利本荘支援センター	－	－	－	－	20	20	41	42	－	－	－	－
阿桜園	100	100	93	89	100	100	109	108	4	4	7	5
やまばと園	60	60	59	60	50	50	74	73	8	8	8	8
支援センター御所野	40	40	40		40	40	47		2	2	54	51
合計	628	628	562	496	652	652	644	575	27	27	92	114

２　就労継続支援

施設名	就労継続支援Ｂ型			
	定員		利用者	
	Ｒ６	Ｒ７	Ｒ６	Ｒ７
心身障害者コロニー	60	60	52	53
やまばと園	10	10	8	11

３　地域生活支援

施設名	日中一時支援				障害児等療育支援			
	定員		利用件数		定員		利用件数	
	Ｒ６	Ｒ７	Ｒ６	Ｒ７	Ｒ６	Ｒ７	Ｒ６	Ｒ７
高清水園	8	8	68	47	－	－	－	－
心身障害者コロニー	5	5	121	175	－	－	－	－
由利本荘支援センター	－	－	－	－	－	－	115	91
阿桜園	4	4	514	361	16	16	297	160
やまばと園	8	8	162	210	12	12	233	238
支援センター御所野	2	2	34		－	－	－	－

４　相談支援

施設名	相談件数	
	Ｒ６	Ｒ７
高清水園	850	876
由利本荘支援センター	1,829	1,665
阿桜園	621	725
やまばと園	483	440

５　居住支援（共同生活援助）

施設名	ホーム名	グループホーム			
		定員		利用者	
		Ｒ６	Ｒ７	Ｒ６	Ｒ７
高清水園 ６カ所	結	5	5	5	5
	みのり	5	5	5	5
	さくら	5	5	4	5
	あおぞら	5	5	5	5
	こまち	4	4	4	4
	あすか	4	4	3	4
心身障害者コロニー １８カ所	わかまつ	6	6	5	6
	やすらぎ	5	5	5	5
	そよかぜ	5	5	5	5
	はまなす	4	4	4	3
	まつかぜ	5	5	4	5
	しおさい	5	5	4	4
	なでしこＡ	5	5	4	3
	なでしこＢ	4	4	4	4
	御門Ａ	5	5	5	5
	御門Ｂ	5	5	5	5
	清和Ａ	5	5	4	4
	清和Ｂ	5	5	3	4
	朋Ａ	5	5	4	3
	朋Ｂ	5	5	5	5
	めぐみ	6	6	5	5
	菖蒲	6	6	6	6
	若菜	5	5	4	5
	虹	5	5	5	5
阿桜園 ２カ所	希望Ⅰ	5	5	5	4
	希望Ⅱ	5	5	5	5
やまばと園	ばってりー	5	5	5	5
合計	２７カ所	134	134	122	124

障害児

施設名	障害児入所施設				放課後等デイサービス・児童発達支援			
	定員		利用者		定員		利用者	
	Ｒ６	Ｒ７	Ｒ６	Ｒ７	Ｒ６	Ｒ７	Ｒ６	Ｒ７
由利本荘支援センター	－	－	－	－	20	20	54	65
阿桜園	5	5	3	4	20	15	26	20
やまばと園	－	－	－	－	10	10	14	10

高齢者

施設名	養護老人ホーム				軽費老人ホーム			
	定員		利用者		定員		利用者	
	Ｒ６	Ｒ７	Ｒ６	Ｒ７	Ｒ６	Ｒ７	Ｒ６	Ｒ７
南部老人福祉エリア	50	50	35	0	50	50	47	42

４．役員等

令和8年3月31日現在

（１）　評議員

氏　名	役　　職　　名
坂　本　　仁	地方独立行政法人　秋田県立療育機構理事長
伊　藤　英　紀	社会福祉法人　秋田県身体障害者福祉協会会長
小　林　　顕	公益社団法人　秋田県手をつなぐ育成会会長
白　川　秀　子	公益社団法人　秋田県看護協会会長
柴　田　　博	秋田看護福祉大学福祉学科教授
和　田　士　郎	一般社団法人　秋田県社会福祉士会会長
尾留川　　等	社会福祉法人　つるまい福祉会　理事
秋　山　尚　子	社会福祉法人　秋田けやき会　理事長
神　谷　長　一	阿桜園保護者会会長

任期　　令和７年６月２４日　～　令和１１年６月定時評議員会

（２）　理事

氏　名	役　　職　　名
佐々木　　薫	前秋田県理事
柴　田　一　宏	柴田一宏法律事務所長
柏　木　清　一	秋田県民生児童委員協議会会長
髙　橋　謙　一	日本赤十字東北看護大学介護福祉短期大学部教授
須　田　広　悦	秋田県社会福祉協議会常務理事
澤　石　　勉	秋田県社会福祉事業団事務局長
斉　藤　礼　彦	秋田県心身障害者コロニー管理者
藤　原　政　広	秋田県南部老人福祉総合エリア管理者

任期　　令和７年６月定時評議員会　～　令和９年６月定時評議員会

（３）　監事

氏　名	役　　職　　名
田　中　政　博	元秋田市財務部長
戸　嶋　　正	元秋田県阿桜園長

任期　　令和７年６月定時評議員会　～　令和９年６月定時評議員会

（４）　会計監査人

法人名	所在地
公認会計士河野隆治事務所	秋田市泉中央１丁目２番１５号

任期　　令和７年６月定時評議員会　～　令和８年６月定時評議員会

５．会議等

(1) 評議員会

開催年月日	出席者数		決議・協議事項
	評議員	理事	
令和7年6月24日	8	1	1 役員(理事、監事)の選任 2 会計監査人の選任 3 社会福祉充実計画(案) 4 令和6年度事業報告及び決算 5 南部老人福祉総合エリア各事業の見直し
令和8年3月24日	8	1	1 定款の一部変更 2 役員等報酬規則の一部改正

(2) 理事会

開催年月日	出席者数		決議・協議事項
	理事	監事	
令和7年6月3日	7	2	1 令和6年度事業報告及び決算(案) 2 社会福祉充実計画(案) 3 評議員候補者の選定 4 役員(理事、監事)候補者の選定 5 会計監査人の選任及び報酬 6 評議員選任・解任委員会委員の選任 7 組織規則の一部改正 8 職員給与規則の一部改正 9 定時評議員会の開催
令和7年6月24日	5	2	1 理事長の選定
令和7年8月29日	7	2	1 指定管理者公募への対応 2 資金運用(案)
令和7年1月6日	7	2	1 令和7年度第1次補正予算(案) 2 秋田県南部老人福祉総合エリアに係る事業の廃止
令和8年3月10日	5	2	1 定款の一部変更 2 組織規則の一部改正 3 文書取扱規則の一部改正 4 職員就業規則の一部改正 5 育児・介護休業規則の一部改正 6 職員給与規則の一部改正 7 継続雇用職員就業規則の一部改正 8 有期契約職員就業規則の一部改正 9 無期契約職員就業規則の一部改正 10 会計規則の一部改正 11 令和7年度第2次補正予算(案) 12 令和8年度事業計画(案) 13 令和8年度当初予算(案) 14 施設長等の任命 15 評議員候補者の推薦 16 第2回評議員会の開催 17 役員賠償責任保険への加入 18 中期経営計画(案) 19 職員採用計画 20 資金運用

(3) 評議員選任・解任委員会

開催年月日	出席者数		決 議 ・ 協 議 事 項
	委員	理事	
令和7年6月24日	3	2	1 評議員の選任
令和8年3月10日	3	1	1 評議員の選任

(4) 施設長会議

開催年月日	内 容
令和7年5月23日	1 令和6年度事業報告及び決算(案) 2 第5次秋田県社会福祉事業団中期経営計画 3 実践発表会 4 人材確保・職場環境改善等補助金 5 理事会議案 6 職員採用 7 地域連携推進会議 8 意思決定支援等ワーキンググループ 9 その他
令和7年8月1日	1 第5期(令和8～12年度)指定管理への対応 2 実践発表会 3 第5次中期経営計画 4 南部エリア養護老人ホームの移行状況等 5 ICT化の取組 6 第1回職員採用試験 7 令和7年度第3回施設長会議の日程 8 令和7年度第3回及び第4回理事会の日程 9 その他□
令和7年10月7日	1 令和7年度第1次補正予算(案) 2 勤怠管理システム導入に伴う検討事項 3 第5次中期経営計画(案)の骨子 4 阿桜園における腸管出血性大腸菌O-157 感染症の状況 6 公用車等事故に係る注意喚起 7 福祉医療機構退職手当共済制度未加入期間への対応 8 職員採用の状況 9 令和7年度第4回理事会議案等 10 改正戸籍法 11 その他
令和7年12月26日	1 勤怠システム導入に伴う労務管理関係課題 2 第5次中期経営計画(案) 3 内部経理監査結果 4 職員採用状況 5 基幹システム「福祉の森」に係る検討 6 一般事業主行動計画(案) 7 公用車事故に係る注意喚起 8 顧問弁護士契約 9 その他
令和8年2月12日	1 令和8年度規則改正の概要 2 中期経営計画(案) 3 職員提案 4 虐待事案 5 意思決定支援等WGの進捗状況 6 研修受講者の選定 7 国立のぞみの園への職員派遣

開催年月日	内　容
令和8年2月12日	8　その他
令和8年3月5日	1　令和7年度第2次補正予算(案) 2　令和8年度事業計画(案) 3　令和8年度当初予算(案) 4　中期経営計画(案) 5　令和8年度職員採用計画(案) 6　理事会議案等 7　ICT化プロジェクトチームの活動報告 8　その他

(5) 監事の監査

開催年月日	内　容
令和7年5月30日	令和6年度事業報告及び決算

(6) 会計監査人の監査

開催年月日	実施箇所	内　　容
令和7年5月7日 ～5月9日	事　務　局	令和6年度決算に係る期末監査
令和7年5月30日	事　務　局	令和6年度事業報告及び決算
令和7年11月4日 ～11月7日	各　施　設	会計拠点区分の期中監査
令和8年1月21日 令和8年2月　6日 令和8年3月14日	監査人事務所	会計拠点区分の期中監査
令和8年3月27日	事　務　局	事務局の期中監査

６．職員

１.職員の配置状況　　令和８年３月３１日現在

区　分	正職員（広域職）	正職員（地域職）	継続雇用	無期契約	有期契約	合計
事務局	13	0	0	1	0	14
北部老人福祉総合エリア	5	0	0	7	3	15
中央地区老人福祉総合エリア	3	0	0	7	2	12
南部老人福祉総合エリア	13	2	5	19	14	53
高清水園	38	0	1	14	24	77
心身障害者コロニー	118	1	5	87	49	260
由利本荘地域生活支援センター	16	0	1	13	10	40
阿桜園	43	3	2	36	24	108
やまばと園	21	1	2	15	24	63
障害者支援センター御所野	16	1	1	3	5	26
点字図書館	1	0	1	5	1	8
聴覚障害者支援センター	1	0	1	0	4	6
計	288	8	19	207	160	682

区　分	正職員（広域職）	正職員（地域職）	継続雇用	無期契約	有期契約	合計
施設長等	13	0	2	0	0	15
課長	18	0	0	0	0	18
事務員	32	0	2	28	14	76
支援員	184	8	10	127	89	418
看護師	17	0	1	3	5	26
管理栄養士・栄養士	8	0	0	0	1	9
理学療法士	1	0	0	0	0	1
技師	15	0	4	14	20	53
世話人	0	0	0	14	13	27
宿直専門員	0	0	0	16	12	28
その他	0	0	0	5	6	11
計	288	8	19	207	160	682

２.職員数の推移　　令和８年３月３１日現在

	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
正職員	302	296	296	292	291	296
継続雇用職員	25	25	25	23	18	19
無期契約職員	201	219	226	215	213	207
有期契約職員	237	224	209	217	194	160
計	765	764	756	747	716	682

３．正職員の採用実績等

令和８年３月３１日現在

職種	採用区分		令和２	令和３	令和４	令和５	令和６	令和７
福祉職	大学卒	広域職	4	6	2	4	5	5
		地域職	0	0	0	0	0	0
	短大卒	広域職	1	0	3	1	2	0
		地域職	0	0	0	0	0	0
	高校卒	広域職	2	2	2	0	0	2
		地域職	2	0	0	0	1	0
	職務経験	広域職	2	0	1	2	2	6
		地域職	5	0	1	1	2	0
福祉職　計			16	8	9	8	12	13
看護職	年度当初		1	0	1	2	0	2
栄養士等			0	1	1	0	0	1
技能職			0	0	0	0	1	1
医師・看護職	年度中途		0	1	1	1	1	1
栄養士等			0	0	0	0	0	1
技能職			0	1	0	0	0	0
専門職　計			1	3	3	3	2	6
最近の採用実績　計			17	11	12	11	14	19

職種	離職区分	令和２	令和３	令和４	令和５	令和６	令和７
福祉職	定年退職	5	4	7	0	5	0
看護職		1	1	1	0	1	0
栄養士等		0	0	0	0	1	0
技師		4	2	0	0	1	0
定年退職　計		10	7	8	0	8	0
福祉職	早期退職（年度末）	4	2	3	7	1	1
医師・看護職		0	0	0	2	0	0
栄養士等		1	1	0	0	0	0
技能職		1	0	0	0	1	1
福祉職	早期退職（年度中途）	2	1	0	3	5	2
医師・看護職		0	0	2	1	1	2
栄養士等		0	0	0	0	0	0
技能職		0	0	0	0	0	0
早期退職　計		8	4	5	13	8	6
最近の離職者数　計		18	11	13	13	16	6

職種	令和２	令和３	令和４	令和５	令和６	令和７
福祉職	253	251	254	249	249	254
医師・看護職	20	20	19	20	18	18
栄養士等	8	8	8	8	8	9
技能職	21	17	15	15	16	15
職員数　計	302	296	296	292	291	296

※栄養士等　栄養士、理学療法士、作業療法士

※各年度の集計人数は、年度末の定年退職者及び早期退職者（年度末）を含む。

７．研修の実施状況

法人研修

区　分	研　修　名	開催日	参加人員（名）
キャリアパス対応研修	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程　チームリーダーコース	7/30～7/31	24名
	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程　初任者コース	9/4～9/5	16名
	福祉職員キャリアパス対応生涯過程フォローアップ研修　管理職員コース	10/24	16名
	福祉職員キャリアパス対応生涯過程フォローアップ研修　中堅職員コース	11/21	22名
階層別研修	令和７年度　新規採用職員研修	4/23～4/24	18名
	契約職員対象研修　スキルアップ研修	10/2	30名
	中堅職員研修（福祉・介護職員等処遇改善加算対象研修）	11/4	19名
	新規採用職員等事前研修	3/11	13名
分野別研修	情報システム担当者研修	6/10	24名
	給与事務担当者（初任者）研修	9/19	7名
	放課後等デイサービス事業所等連絡会（研修　こどもの心身の発達の理解）	9/25	13名
	グループホーム世話人等研修会	10/16	30名
	営業管理業務に係る情報交換会	10/31	7名
	サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者実践研修に係る事前研修	11/20・11/26	3名
一般研修等	介護技術研修	5/22・5/29	29名
	職員育成研修①　障がいの基礎的理解	6/19	30名
	意思決定ワーキンググループ研修（条例・法律の理解）	7/11～7/17	60名
	個人情報保護に係る研修（オンライン）	9/18	
	ICT化プロジェクトチーム視察研修（東京都社会福祉事業団）	10/2～10/3	8名
	意思決定支援ワーキンググループ研修「障害福祉サービスの理解」動画研修	10/17～12/4	341名
	サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者・相談支援専門員等合同連絡会（意思決定支援研修）	12/3	51名
	秋田県社会福祉事業団実践発表会	12/5	114名
	意思決定ワーキンググループ研修（アセスメントの重要性）	12/17・12/23・1/14	80名

事務局

区　分	研　修　名	開催日	参加人員（名）
資格・認定・加算対象研修	秋田県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者（更新研修）	8/21～8/22	1名
	秋田県相談支援従事者現任研修	9/12	1名
	強度行動障害支援者養成研修（実践研修）	3/4～3/5	1名
分野別研修	相談支援専門員等専門コース別研修　意思決定支援コース	4/10	1名
	所得税の基礎的控除と源泉徴収事務の解説と実務	9/11	2名
	研修実施担当者研修	11/19～11/20	1名
	社会福祉法人会計事務決算講座	1/14	1名
一般研修等	日本災害福祉研究会　第一研究会（秋田大会）	7/27	1名
	秋田県経営経セミナー	8/27	2名
	全国社会福祉事業団大会	11/13～11/14	2名
	横手市基幹相談支援センター研修会（意思決定支援の進展に向けて）	12/15	1名
	障害者支援施設部会全国大会　愛知大会	12/17～12/18	1名
	社会福祉法人研修会（経営分析の基礎と実践）	12/23	1名
	北海道・東北ブロック社会福祉事業団連絡協議会職員研修Ⅰ	1/22	2名
	秋田県災害福祉広域地域支援ネットワーク協議会	2/12	1名
	北海道・東北ブロック社会福祉事業団連絡会	2/19～2/20	2名
	全国社会福祉法人経営者協議会障害福祉事業経営セミナー	2/17	1名
	医療的ケア児の災害対策について	2/20	1名
	先進地視察　やまなみ工房	2/18	1名

秋田県北部老人福祉総合エリア

区　分	研　修　名	開催日	参加人員（名）
階層別研修	新規採用職員研修	2/6	1名
分野別研修	社会福祉法人会計実務者決算講座	1/14	1名
一般研修等	安全運転管理課講習	7/4	1名
	上級救命講習	9/7	2名
	北海道・東北ブロック社会福祉事業団連絡協議会職員研修Ⅰ	1/22	2名
	北海道・東北ブロック社会福祉事業団連絡協議会職員研修Ⅱ	2/19～2/20	1名

秋田県中央地区老人福祉総合エリア

区　分	研　修　名	開催日	参加人員（名）
階層別研修	新規採用職員研修	7/1・9/17	2名
分野別研修	社会保険担当者事務　説明会	7/18	1名
	社会保険担当者事務　講習会	12/4	1名
	社会福祉法人会計実務者決算講座	1/14	1名
一般研修等	安全運転管理者講習会	9/3	1名
	北海道・東北ブロック社会福祉事業団職員研修Ⅱ	2/19～2/20	1名

秋田県南部老人福祉総合エリア

区　分	研　修　名	開催日	参加人員（名）
資格・認定・加算対象研修	認知症介護基礎研修	7/4	1名
	秋田県災害派遣福祉チーム員登録基礎研修	9/11～9/12	1名
	社会福祉施設等感染症対応力向上推進者養成研修	9/29	2名
	秋田県ケアラー支援・普及啓発事業普及啓発セミナー	9/30	1名
	秋田県災害派遣福祉チーム員スキルアップ研修	11/27～11/29	1名
	秋田県災害派遣福祉チーム員スキルアップ研修Ⅱ	1/22～1/24	1名
	介護支援専門員（更新）	1/27	1名
階層別研修	新任・転任職員研修	4/10	7名
	新任等職員オリエンテーション	8/6	3名
	秋田県老人福祉施設長研修会Ⅰ	11/7	1名
分野別研修	秋田県介護支援専門員協会　第１回研修会	5/28	1名
	横手地区ケアマネジメント研修会	7/25	1名
	施設給食担当職員研修	8/29	1名
	介護予防ケアマネジメント講習会	10/29	2名
	研修担当職員研修	11/19～11/20	1名
	給食担当職員意識改革研修（阿桜園事業所内研修）	11/20	2名
	社会福祉法人会計実務者決算講座	1/14	1名
	包括的・継続的ケアマネジメント支援研修会	2/16	2名
意識改革研修	虐待防止研修	6/26	12名
	不適切な支援検証研修	7/29	9名
	OJTリーダー研修	1/28	1名
	怒りのマネジメント研修	2/9	1名
一般研修等	福祉サービスに関わる苦情解決研修会	6/3	1名
	口腔ケア研修	6/5	6名
	メンタルヘルス研修　健康講話	6/17・6/27	25名
	生産性向上委員会　公開勉強会	6/20・6/30	7名
	地域包括ケア懇談会	7/4	4名
	救命講習会	7/10	7名
	生産性向上に向けたセミナー・説明相談会＆介護テクノロジー展示会	7/12	5名
	BCPの効果的な運用に向けた研修会	7/22	1名
	メンタルヘルス研修　トレーニングセンター職員からの運動指導	7/24～9/11	31名
	BCP伝達研修及び南部エリアのBCP説明	8/8	14名
	社会福祉施設における転倒・腰痛労働災害防止講習会	8/27	1名
	市立横手病院　職員研修会　感染症対策と地域連携	9/18	2名
	福祉サービスに関わる苦情解決研修会　中級編	9/24	1名
	口腔衛生研修	10/16	9名
	感染症予防研修	10/23	12名
	横手市老連協　職員研修	10/24	4名
	福祉サービスに関わる苦情解決研修会　メンタルヘルス	11/4	1名
	事業所管理者向け研修	11/17	1名
	県南地区給食施設関係者研修会　災害発生時の給食提供体制等	11/18	1名
	腰痛予防講座	11/19	10名
	介護予防従事者研修	12/10	1名
	北海道・東北ブロック社会福祉事業団連絡協議会職員研修Ⅰ	1/22	1名
	福祉保健従事者向け研修「介護現場のカスタマーハラスメントの予防と防止」	1/27	1名
	BCP(感染症対応）研修	2/3	5名
	感染症対応研修	2/17	10名
その他の研修	介護用品等展示会	5/21	1名

高清水園

区　分	研　修　名	開催日	参加人員（名）
資格・認定・加算対象研修	強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	5/24～10/28	8名
	強度行動障害支援者養成研修（実践研修）	5/25～3/22	5名
	相談支援従事者等講師養成研修	6/20	2名
	秋田県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修（実践研修）	7/10～7/11	2名
	秋田県強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	7/18・7/24	2名
	秋田県強度行動障害支援者養成研修（実践研修）	9/24・9/29	2名
	岩手県立大学社会福祉士実習指導者講習会	9/27～9/28	1名
	第２回中核的人材育成研修	9/30	1名
	精神障害者支援の障害特性と支援技法を学ぶ研修会	10/16～10/17	1名
	秋田県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修（基礎研修）	11/27～11/28	3名
階層別研修	新任・転任職員研修	4/8・4/10	10名
	東北地区知的障害者福祉協会定期総会　施設長等連絡会	6/16～6/17	1名
	強度行動障害支援者養成研修　基礎研修（指導者研修）	6/30～7/1	1名
	強度行動障害支援者養成研修　実践研修（指導者研修）	7/3～7/4	1名
	全国知的障害者関係施設長等会議	7/10～7/11	2名
	新任職員研修	9/8・10/1	5名
分野別研修	短期入所・日中一時支援事業契約に係る説明会	5/22	9名
	大仙市基幹相談支援センターかのん研修会	7/18	1名
	福祉保健施設・事業者等看護職員研修	9/1	1名
	全国グループホーム等研修会	9/18～9/19	2名
	社会福祉法人会計担当者研修（初級コース）	9/25	1名
	社会福祉法人会計担当者研修（中級コース）	9/26	2名
	給食担当職員意識改革研修（阿桜園事業所内研修）	11/20	2名
	秋田市基幹相談支援センター事例検討会	11/28	2名
	コミュニケーション向上研修	1/21	1名
	秋田市基幹相談支援センター研修会	2/6	1名
	相談支援事業所連絡会	2/27	4名
意識改革研修	合理的配慮（Special Learning４月研修）	4/28～5/9	70名
	虐待・ハラスメント防止研修	9/29	1名
	アンガーマネジメント（Special Learning１０月研修）	10/3～10/15	76名
	いわてパーソンセンタードフォーラム	12/4	6名
	虐待防止・権利擁護・身体拘束の適正化（Special　Learning１月研修）	1/23～2/13	76名
	説明力・説得力強化研修	2/18	2名
一般研修等	接遇講習会（初級編）	5/29	2名
	接遇講習会（上級編）	5/30	1名
	チームプレイについて（Specoal Learning５月研修）	5/26～6/4	70名
	意思決定支援研修（Specoal Learning６月研修）	6/20～6/30	70名
	メンタルヘルス講習会	7/9	1名
	職員研修　知的障害等について①	7/14	4名
	感染症対策について（Special Learning７月研修）	7/15～7/25	69名
	職員研修　条約・法律の理解	7/18～7/29	12名
	職員研修　知的障害等について②	7/28	4名
	職員交換研修（センター御所野）	7/28～7/30	1名
	社会福祉施設における労働災害防止講習会	7/29	1名
	感染症対策訓練	8/5	27名
	コミュニケーションについて（Special Learning８月研修）	8/12～8/22	72名
	職員研修　知的障害等について③	8/18	4名
	障害特性研修（認知症）	9/3	4名
	職員研修　知的障害等について④	9/8	4名
	災害対策（BCP）（Special Learning９月研修）	9/8～9/17	76名
	職員研修　条約・法律の理解②	9/25	4名
	障害のある人の意思決定支援を推進するための実践研修会	9/25～9/26	1名
	情報アップデートDAY2025	10/1	1名
	福祉新聞フォーラム	10/8	1名
	国際福祉機器展＆フォーラム	10/9	1名
	感染症対策訓練	9/8～10/3	69名
	職員研修　知的障害等について⑤	10/20	4名
	職員交換研修（センター御所野）	10/20～10/22 10/27～10/29	2名

一般研修等	レクリエーション講習会	10/24	1名
	秋田県知的障害者福祉協会事業所視察研修会	10/31	1名
	職員研修　内服薬等	11/10	5名
	秋田県知的障害者福祉協会専門研修会	11/11	6名
	秋田県知的障害者福祉協会　障害者支援施設部会	11/21	6名
	感染症対策（発生時編）（Special Learning11月研修）	11/25～12/5	75名
	職員研修（障害福祉サービスについて①）	12/1	5名
	全日本自閉症支援者協会　福井大会	12/8～12/9	2名
	事業所見学（社会福祉法人足羽福祉会　足羽更生園）	12/10	2名
	応急処置について（職員希望研修）	12/11	28名
	障害者支援施設部会全国大会　東海地区愛知大会	12/17～12/18	2名
	職員研修（障害福祉サービスについて②）	12/22	5名
	職員研修（内服薬等）	1/16	2名
	職員希望による研修（応急処置について）	12/29～1/11	48名
	職員希望による研修（意思決定支援について）	2/13～3/1	76名
	先進施設見学	2/18～2/20	5名
	感染症対策訓練②	2/15～3/20	77名

秋田県心身障害者コロニー

区　分	研　修　名	開催日	参加人員（名）
資格・認定・加算対象研修	認知症介護基礎研修	7/4	1名
	強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	7/15～7/31	3名
	強度行動障害支援者養成研修（実践研修）	7/15～8/28	9名
	秋田県強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	7/18・7/24	1名
	秋田県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者（更新研修）	8/21～8/22 9/25～9/26	4名
	秋田県強度行動障害支援者養成研修（実践研修）	9/29	1名
	岩手県立大学社会福祉士実習指導者講習会	9/27～9/28	1名
	秋田県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修（基礎）	10/30～10/31 11/27～11/28	6名
	秋田県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修（実践）	12/17～12/18	1名
	中核的人材養成研修	2/28	1名
階層別研修	新任・転任職員研修	5/15	16名
	全国知的障害関係施設長等会議	7/10～7/11	2名
	新任（転任）職員研修	10/15	4名
分野別研修	チェーンソー作業従事者特別教育講習会	6/23～6/25	1名
	甲種防火管理新規講習	6/26～6/27	2名
	危険物取扱者保安講習	8/5	2名
	福祉保健施設・事業者等看護職員研修	9/1	1名
	社会福祉法人会計担当者研修（初級クラス）	9/25	2名
	研修担当職員研修	11/19～11/20	2名
	社会福祉法人会計実務者決算講座	1/14	1名
	障害者就労支援セミナー	3/6	1名
	就労選択支援の最前線と未来	3/16	1名
意識改革研修	虐待・ハラスメント防止研修	9/29	1名
	アサーティブコミュニケーション研修	10/21	11名
	リスクマネジメント研修	11/7	3名
	障害者虐待防止・権利擁護研修	12/1	1名
	コミュニケーション向上研修	1/21	1名
	介護現場のカスタマーハラスメントの予防と防止	1/27	1名
	虐待防止・権利擁護研修　伝達研修	1/19～2/13	246名
	タイムマネジメント研修	2/4	1名
	怒りのマネジメント研修	2/9	2名
一般研修等	福祉サービスに係る苦情解決研修会（初級編）	6/4・6/11	5名
	ビジネスマナー向上研修	6/13	2名
	メンタルヘルス研修（初級編）	7/8	2名
	メンタルヘルス研修（上級編）	7/9	1名
	感染症対策・応急手当対応研修	7/9	14名
	社会福祉施設における転倒・腰痛災害防止に係る講習会	7/22	1名
	メンタルヘルス研修	7/24	10名
	先進地視察研修及び青森県知的障害者福祉協会日中活動支援部会研修会	9/10～9/11	2名
	障害者差別解消法研修	9/24	14名
	福祉サービスに関わる苦情解決研修会　中級編	9/25	3名

一般研修等	障害のある人の意思決定支援を推進するための実践研修会	9/25～9/26	2名
	秋田県社会福祉施設感染症対応力向上推進者養成研修	10/6	4名
	第52回国際福祉機器展・フォーラム	10/8～10/10	1名
	先進地視察研修Ⅱ（社会福祉法人侑愛会・社会福祉法人はるにれの里）	10/28～10/30	3名
	福祉サービスに関わる苦情解決研修会　メンタルヘルス編	11/4	3名
	秋田県知的障害者福祉協会専門研修会	11/11	1名
	秋田県地域生活定着促進事業研修会	11/27	1名
	全国知的障害福祉関係職員研究大会	11/27～11/28	1名
	全国社会福祉事業団大会	11/13～11/14	1名
	障害者支援施設部会全国大会	12/17～12/18	2名
	日中活動支援部会全国大会　新潟大会	12/4～12/5	2名
	東北地区知的障害者福祉協会職員研修大会	12/16～12/17	2名
	対人支援職者のためのメンタルヘルス研修	12/22～12/23	2名
	北海道・東北ブロック社会福祉事業団連絡協議会職員研修Ⅰ	1/22	3名
	秋田県知的障害者福祉協会職員研修会	2/10	1名
	北海道・東北ブロック社会福祉事業団連絡協議会職員研修Ⅱ	2/19～2/20	2名

由利本荘地域生活支援センター

区　分	研　修　名	開催日	参加人員（名）
資格・認定・加算対象研修	秋田県相談支援従事者等講師養成研修	6/20	1名
	秋田県災害派遣福祉チーム員登録基礎研修	6/26～6/27	1名
	秋田県強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	7/18・7/24	3名
	秋田県相談支援従事者現任研修	9/12	2名
	秋田県強度行動障害支援者養成研修（実践研修）	9/22・9/29	3名
	精神障害者支援の障害特性と支援技法を学ぶ研修会	10/16～10/17	1名
	秋田県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修（基礎）	10/30～10/31	1名
	秋田県医療的ケア児等コーディネーター養成研修	11/9	1名
	秋田県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修（実践）	12/18～12/19	1名
階層別研修	新任・転任職員研修	4/3	6名
	新任・転任職員研修	10/7	2名
分野別研修	甲種防火管理新規講習	7/9～7/10	1名
	大仙市基幹相談支援センターかのん研修会	7/18	2名
	職業リハビリテーション研究発表会	8/22	3名
	医療的ケア児等コーディネーターフォローアップ研修	8/28	1名
	就労支援セミナーぱあとなあ２０２５	9/12	3名
	全国就業支援ネットワーク　定例研究・研修会	10/3～10/4	3名
	相談支援・就労支援セミナー	10/23～10/24	1名
	アウトリーチ人材育成研修	10/27	5名
	研修担当職員研修	11/19～11/20	1名
	就労系事業所からの一般就労への在り方を学ぶ研修会	12/8	3名
	配置型ジョブコーチと学ぶケーススタディ	12/12	2名
	障害者就労セインセミナー	3/6	3名
	ＣＥＦ2026　質の高い障害者雇用を考える会議	3/13～3/14	3名
	就労選択支援の最前線と未来	3/16	2名
	秋田県医療観察制度普及啓発研修	3/18	1名
意識改革研修	虐待防止研修（ロールプレイ）	9/2～9/11	32名
	コミュニケーション向上研修	12/2～12/10	40名
	障害者障害者虐待防止・権利擁護研修	12/1	1名
	虐待防止・権利擁護研修　伝達研修	1/28～1/29	37名
一般研修等	防災研修	4/22	7名
	ＢＣＰ研修	5/8～5/15	39名
	学校視察研修（ゆり支援学校）	6/9	12名
	事業所視察研修（児童発達支援・放課後等デイサービスじゃんぷ）	6/17	4名
	介護技術研修	6/5～6/19	19名
	救命救急講習	6/17	10名
	感染症対策研修・腰痛予防研修	7/3～7/31	41名
	社会福祉施設における転倒・腰痛災害防止講習会	7/22	1名
	高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業支援担当職員研修会	8/28	3名
	家計改善支援に関する研修会	9/5	3名
	支援者向け障害児支援基礎講座	10/10	1名
	職員交換研修（支援センター御所野）	10/24	2名

一般研修等	感染症対策研修	11/4	40名
	秋田県知的障害者福祉協会専門研修会	11/11	2名
	自殺未遂者支援関係者研修会	11/13	1名
	秋田県地域生活定着推進事業研修会	11/27	1名
	全国知的障害福祉関係職員研究大会	11/27～11/28	1名
	北海道・東北ブロック社会福祉事業団連絡協議会職員研修Ⅰ	1/22	2名
	タイムマネジメント研修	2/4	1名
	秋田県発達障害児者及び家族等支援事業シンポジウム	2/1～2/28	4名

阿桜園

区　分	研　修　名	開催日	参加人員（名）
資格・認定・加算対象研修	強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	5/13～3/7	3名
	強度行動障害支援者養成研修（実践研修）	5/27～3/22	5名
	秋田県強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	7/22・7/24	2名
	秋田県強度行動障害支援者養成研修（実践研修）	9/24・9/29	2名
	秋田県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修（更新）	9/25～9/26	2名
	秋田県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修（基礎）	11/27～11/28	1名
	秋田県相談支援者従事者初任者研修	12/12	1名
	秋田県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修（実践）	12/18～12/19	1名
階層別研修	新任・転任職員研修	4/3	9名
	東北地区知的障害者福祉協会定期総会　施設長等連絡会	6/16～6/17	1名
	全国知的障害関係施設長等会議	7/10～7/11	1名
	新任（転任）職員研修	11/5	5名
分野別研修	福祉保健施設・事業者等事務職員研修	7/3	1名
	大仙市基幹相談センターかのん研修会	7/18	3名
	ペアレントトレーニング集中セミナー（支援者向け）	8/28	2名
	給食担当職員研修	8/29	2名
	社会福祉法人会計担当者研修（初級クラス）	9/25	1名
	社会福祉法人会計担当者研修（中級クラス）	9/26	1名
	衛生管理者の職務と職場巡回について	10/20	1名
	給食担当職員意識改革研修	11/20	10名
	相談支援・就業セミナー	11/28	1名
	社会福祉法人会計事務決算講座	1/14	2名
	改正法解説オンラインセミナー	2/26	1名
意識改革研修	障害者虐待防止・身体拘束に向けた研修	5/22～6/10	99名
	事業団におけるコンプライアンス体制に係わる研修	6/24～6/30	15名
	障害者虐待防止・権利擁護研修	12/1	1名
	虐待防止ロールプレイ研修	1/9・1/16	31名
	虐待防止・権利擁護研修　伝達研修	1/23～1/30	102名
	OJTリーダー研修会	1/28	1名
	虐待防止ロールプレイ研修	2/16	17名
	虐待防止研修（管理職・マネージャー対象）	2/20	12名
	所内研修　身体拘束廃止に向けた研修	2/24	77名
	OJTリーダー研修(伝達)	2/2	17名
	怒りのマネジメント研修	2/9	1名
	強度行動障害支援と虐待防止研修	2/16	77名
	虐待防止ロールプレイ研修	3/10～3/13	13名
一般研修等	接遇講習会（上級編）	5/30	1名
	スキルアップ研修（食事介助）	6/12	8名
	感染症シミレーション訓練	6/18	12名
	感染症研修（ガウンテクニック）	6/23	8名
	メンタルヘルス講習会	7/9	1名
	秋田県社会福祉施設等感染対応力向上推進者養成研修	9/29・10/6	3名
	福祉新聞フォーラム国際福祉機器展	10/8	1名
	安全運転管理者講習会	11/5	1名
	全国重心障害者日中活動支援協議会	11/8	2名
	秋田県知的障害者福祉協会専門研修会	11/11	1名
	県南地区給食施設関係者研修会　災害発生時の給食提供体制等	11/18	2名
	横手市成年後見セミナー	11/20	1名
	普通救命救急研修	12/2	12名
	感染症シミレーション訓練	12/8	4名

一般研修等	支援アドバイザー研修（自閉症スペクトラム症の基礎理解）	12/11	12名
	県南障害福祉施設職員保護者合同研修	12/12	2名
	横手市基幹相談支援センター研修会（意思決定支援の進展に向けて）	12/15	6名
	障害者支援施設部会全国大会	12/16～12/18	1名
	課題別研修Ⅱ福祉実践あきた	12/16	1名
	対人支援者のためのメンタルヘルス研修	12/22～12/23	1名
	感染症研修（講義・ＰＰＥ着脱実技）	1/20	23名
	北海道・東北ブロック社会福祉事業団連絡協議会職員研修Ⅰ	1/22	1名
	青森県知的障害者協会研修会	1/26	1名
	知的障害者協会職員研修会	2/10	2名
	意思決定に係る研修	2/25	77名
	ＢＣＰ研修	3/10	11名
	日本環境感染学会東北ブロック感染対策研修会	3/13	1名

やまばと園

区　分	研　修　名	開催日	参加人員（名）
資格・認定・加算対象研修	秋田県災害派遣福祉チーム員登録基礎研修	6/26～6/27	1名
	秋田県強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	7/22・7/24	1名
	秋田県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者更新研修	8/21～8/22	1名
	秋田県強度行動障害支援者養成研修（実践研修）	9/24・9/29	2名
	精神障害者支援の障害特性と支援技法を学ぶ研修	10/16～10/17	1名
	秋田県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修（基礎）	10/30～10/31 11/27～11/28	2名
	医療的ケア児等コーディネーター養成研修	11/9	1名
	秋田県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修（実践）	12/18～12/19	1名
	サービス管理責任者更新研修	2/25・3/25	2名
階層別研修	新任・転任職員研修オリエンテーション	4/4	8名
	新規採用職員研修	12/10・1/23	4名
分野別研修	福祉保健施設・事業者等事務職員研修	7/3	1名
	大仙市基幹相談支援センターかのん研修会	7/18	2名
	医療的ケア児等コーディネーターフォローアップ研修	8/28・10/8	1名
	研修担当者研修	11/19～11/20	1名
意識改革研修	虐待防止ロールプレイ研修	6/26～7/29	26名
	虐待防止ロールプレイ研修	10/29～11/20	25名
	コーチング研修	9/12・10/8	1名
	リスクマネジメント研修	11/7	1名
	虐待防止ロールプレイ研修	11/6～11/20	17名
	障害者虐待防止・権利擁護研修	12/1	1名
	横手市基幹相談支援センター研修会　意思決定支援の進展に向けて	12/15	3名
	コンプライアンス研修	12/22	6名
	虐待防止ロールプレイ研修	12/24	5名
	虐待防止ロールプレイ研修	2/10～2/19	22名
	虐待防止・権利擁護研修　伝達研修	1/16～2/24	62名
一般研修等	ビジネスマナー向上研修	6/13	1名
	普通救命講習	6/23	7名
	感染症予防研修	6/25	6名
	栄養マネジメント研修	8/28	4名
	応急処置研修	8/28	5名
	秋田県社会福祉施設等感染症対応向上推進者養成研修	9/29	3名
	湯沢雄勝地域包括支援ネットワーク協議会研修	10/28	2名
	秋田県知的障害者福祉協会専門研修会	11/11	2名
	県南地区給食施設関係者研修会　災害発生時の給食提供体制等	11/18	3名
	介護技術研修	12/9	5名
	触法障害者への支援	12/11	11名
	相談支援業務・受給者証についての研修	1/21	6名
	北海道・東北ブロック社会福祉事業団連絡協議会職員研修Ⅰ	1/22	3名
	感染症予防研修	1/29	9名
	ＢＣＰ事業継続計画（災害編）	2/12	5名

障害者支援センター御所野

区　分	研　修　名	開催日	参加人員（名）
資格・認定・加算対象研修	秋田県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修（実践研修）	7/10～7/11	1名
	秋田県強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）	7/18・7/24	1名
	秋田県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修（基礎）	10/30～10/31 11/27～11/27	2名
階層別研修	新任・転任職員研修	4/1～4/3	5名
分野別研修	施設給食担当職員研修	8/29	1名
意識改革研修	コンプライアンス研修	4/23～5/16	21名
	障害者虐待防止・権利擁護研修	12/1	1名
	OJTリーダー研修	1/28	1名
	障害者虐待防止・権利擁護研修	1/28	8名
	障害者虐待防止・権利擁護研修　伝達研修	2/4～2/20	18名
	怒りのマネジメント研修	2/9	1名
一般研修等	感染症対応研修	5/12～6/13	25名
	接遇講習会（初級編）	5/29	2名
	普通救命講習会	8/16	1名
	認知症研修	9/3	12名
	秋田県社会福祉施設等感染症対応力向上推進者養成研修	10/6	1名
	感染症対応研修①　手指消毒研修（BCP）	10/8～10/11	25名
	防災講話（BCP）	10/11	7名
	職員交換研修（高清水園）	10/20～10/22	1名
	業務改善研修（ワールドカフェ方式）	10/22	7名
	救急救命講習	10/26・12/20	2名
	東北多職種支援懇談会	11/30	1名
	救急搬送想定研修	12/18	4名

秋田県点字図書館

区　分	研　修　名	開催日	参加人員（名）
階層別研修	新任・転任職員研修	4/2	1名
分野別研修	音声版「選挙のお知らせ」制作オンライン研修会	5/16	2名
	サピエ研修会	7/3～7/4	4名
	東北・新潟・北海道ブロック点字図書館等連絡協議会音訳部研修会	9/18～9/19	1名
	点字図書館職員のための著作権セミナー	11/21	1名
一般研修等	ホームページ更新操作習得研修	5/29～5/30	6名
	メンタルヘルス研修	6/16	8名
	視察研修（宮城県立視覚障害者情報センター）	9/12	1名
	視察研修（岩手県立聴覚障がい者センター・視覚障害者のための手でみる博物館）	10/10	3名
	個人情報保護伝達研修	10/14	7名
	全視情協　録音委員会単独研修会	11/7	1名
	障害理解促進研修Ⅰ	1/20	7名
	点字図書館サービス理解促進研修	2/17	8名
	北海道・東北ブロック社会福祉事業団連絡協議会　職員研修Ⅱ	2/19～2/20	1名

秋田県聴覚障害者支援センター

区　分	研　修　名	開催日	参加人員（名）
分野別研修	盲ろう者向け通訳・介助員養成担等研修会（養成研修企画・立案コース）	7/3～7/5	1名
	東北ろうあ者相談員連絡協議会研修会	7/18	1名
	意思疎通支援事業担当研修会	7/31～8/1	1名
	聴覚障害者向け映像制作担当者研修会	11/6～11/7	1名
	第１ブロック活動研修会	11/7	2名
	障害者差別解消に係る相談対応職員研修会	11/13	1名
	秋田県手話通訳者コーディネート研修会	11/21	1名
	第１ブロック映像制作担当者実技研修会	2/4	1名
	全国ろうあ者相談員研修会・全国職業安定所手話協力員等研修会	2/6～2/7	1名
	第１ブロック相談支援担当者研修会	2/16	1名
一般研修等	個人情報保護に係るオンライン研修（伝達研修）	9/24	5名
	動画編集入門講習	10/22～10/23	1名
	動画編集基礎講座	12/18～12/19	1名
	北海道・東北ブロック社会福祉事業団連絡協議会職員研修Ⅰ	1/22	1名

８．苦情解決処理状況

（１）施設別件数

区　　分	（職員の接遇等）サービス内容	（サービスの質・量）サービス内容	説明・情報提供	施設・設備	制度・施策	金銭	被害・損害	権利侵害	その他	計	（継続中の件数）苦情解決結果
北部老人福祉総合エリア										0	0
中央地区老人福祉総合エリア		1		1					1	3	0
南部老人福祉総合エリア										0	0
高清水園			1						1	2	0
心身障害者コロニー										0	0
由利本荘地域生活支援センター										0	0
阿桜園	2	1								3	0
やまばと園	1		1							2	0
障害者支援センター御所野	1								2	3	0
点字図書館										0	0
聴覚障害者支援センター										0	0
計	4	2	2	1	0	0	0	0	4	13	0

（２）苦情の主な内容

	内容の分類	件数	割合	苦情内容	解　決　策
利用施設	サービス内容 （サービスの質と量）	1	33%	スリッパが汚い、古い。（施設利用時のアンケート）	新しいスリッパを購入し、使用している物の汚れ、破損を都度確認、交換、破棄した。
	施設・設備	1	33%	打たせ湯を利用しに来たが何カ月も故障中になっている。（施設利用時のアンケート）	修繕していただくよう県に協議を行っているが回答が得られていない状態である。修繕が進められるよう継続して県に確認していく。
障がい施設・老人施設	サービス内容 （職員の接遇等）	4	40%	トイレに入っていた際、複数回同じ職員にノックをせずにドアを開けられた。	基本的なマナーを失念し嫌な思いをさせてしまったことを謝罪し、今後同様のことがあればすぐに申し出てほしいことを伝えた。職員にはプライバシーの確保について周知を図った。
	その他	3	30%	同じグループホームの入居者から洗濯機の使用中にスイッチを切られたり、入浴中に給湯器のスイッチを切られたりした。	グループホームのルールを見やすい場所に掲示し、ルールの確認、ルール違反があった時は職員に伝えてほしいことなどを入居者全員とスタッフとで話し合い、共有、確認する場を設けた。

（３）過去５年間における苦情件数の推移

年　　度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
件　　数	29	22	14	18	9

（４）苦情解決処理委員会の開催状況

施　設　名	開　催　日	出席者人数	会　議　内　容
北部老人福祉総合エリア	令和８年３月１２日	・第三者委員　１名 ・職員　２名	・アンケート結果報告 ・事業実施状況報告 ※苦情処理件数：０件
中央地区老人福祉総合エリア	令和８年３月１２日	・第三者委員　２名 ・職　員　３名	・苦情解決処理状況 ・顧客満足度調査報告 ・第三者委員からの助言
南部老人福祉総合エリア	令和８年３月２日	・第三者委員　２名 ・職員　７名	・苦情処理状況の報告 ・顧客満足度調査等の報告 ・第三者委員からの助言
高清水園	令和７年３月６日	・第三者委員　２名 ・職員　７名	・高清水園運営状況報告 ・苦情解決処理報告
心身障害者コロニー	令和８年２月２６日	・第三者委員　２名 ・職員　１０名	・苦情解決状況報告について ・満足度調査の結果について ・第三者委員から公表並びに助言他
由利本荘地域生活支援センター	令和８年３月４日	・第三者委員　２名 ・職　員　６名	・苦情解決処理状況報告 ・第三者委員より講評と助言
阿桜園	令和８年２月２６日	・第三者委員　３名 ・職員	・苦情解決処理報告３件 ・第三者委員より講評と助言
やまばと園	令和８年２月２６日	・第三者委員　４名 ・苦情委員　５名	・苦情受付件数及び苦情処理状況の説明 ・利用者の何でも聞きます会の内容説明 ・第三者委員からの助言
支援センター御所野	令和８年３月１２日	・第三者委員　１名 ・職員　４名	・運営状況の報告 ・苦情解決処理状況の報告
点字図書館	令和８年３月１２日	・第三者委員　２名 ・職員　２名	・苦情は無かったため、利用者に行った満足度調査の内容や対応などを報告した。また館の運営状況についても報告し、さらに全県的な広報に努めてほしい旨の意見をいただいた。
聴覚障害者支援センター	令和８年３月１３日	・第三者委員　２名 ・職員　１名	・令和７年度苦情解決処理について ・令和７年度活動報告について ・第三者委員より講評と助言

９．虐待防止（対策）委員会の開催状況

施　設　名	開　催　日	出席者人数	会　議　内　容
南部老人福祉総合エリア	身体拘束適正化 委員会 年４回開催	・職員４～９名	・身体拘束等に係る事案の確認 ・各部署の支援状況等
	虐待防止対策員会 年５回開催	・職員４～９名	・令和７年度の虐待防止委員会の体制と計画 ・虐待防止チェックリストの実施及び検証と取組 ・研修内容と実施の検討 ・標語の掲示
	虐待防止委員会 年２回開催 令和７年９月３０日 令和８年３月２日	・第三者委員２名 ・白寿園職員 ・利用者代表 ・職員６～７名	・今年度の虐待防止への取組み ・虐待防止チェックリストの結果 ・虐待防止責任者会議の内容 ・委員からの講評と助言
高清水園	虐待防止対策委員会 年１６回実施	・職員１０名前後	・身体拘束適正化に向けた検討 ・支援状況確認について ・虐待アンケートについて ・虐待防止委員会の年間計画について ・虐待防止チェックリストについて ・虐待防止チェックリストの検証・対応 ・虐待防止研修について ・利用者満足度調査について ・不適切な支援について （防止策と対応の検討）
	虐待防止委員会 令和７年１０月２８日	・第三者委員１名 ・利用者１名 ・親の会１名 ・職員８名	・第１回虐待防止チェックリスト結果報告 ・安全確保のための動作制限状況等 ・虐待防止に向けた取組について ・委員からの評価・助言
	虐待防止委員会 令和８年３月４日	・第三者委員１名 ・利用者１名 ・親の会１名 ・職員８名	・第２回虐待防止チェックリスト結果報告 ・安全確保のための動作制限状況等 ・虐待防止に向けた取組について ・満足度調査の結果について ・委員からの評価・助言
心身障害者コロニー	課虐待防止対策委員会 （年４回以上開催）	・職員１４名	・基本理念及び施設の運営方針 ・職員の倫理行動基準 ・虐待防止責任者会議報告 ・虐待防止マニュアルの改正要旨 ・虐待防止チェックリストの結果 ・虐待防止チェックリスト実施結果による今後の対応 ・各課より結果と対策 ・動作制限カンファレンス
	虐待防止対策委員会 （２０回）	・職員７名程度	・身体拘束適正化のカンファレンス ・経済的虐待の検討等
	虐待防止委員会 令和７年９月２６日	・第三者委員２名 ・保護者１名 ・利用者２名 ・職員１４名	・コロニーの現況について ・第１回虐待防止チェックリスト結果報告 ・虐待防止に関する取組報告 ・委員より講評・助言 ・コロニー支援課視察
	虐待防止委員会 令和８年２月２６日	・第三者委員２名 ・保護者１名 ・利用者２名 ・職員１４名	・コロニーの現況について ・第２回虐待防止チェックリスト結果報告 ・虐待防止に関する取組報告 ・委員より講評・助言

施　設　名	開　催　日	出席者人数	会　議　内　容
由利本荘地域生活支援センタ	虐待防止 対策委員会 毎月実施	・職員８名	・虐待防止推進年間計画について ・各部署の支援状況確認について ・虐待防止チェックリストの検証及び対応について
	虐待防止委員会 令和７年１０月１４日 令和８年３月４日	・第三者委員２名 ・利用者１名 ・保護者１名 ・職員５名	※良い支援を考える委員会として実施 ・令和7年度、良い支援に係る取組状況について（チェックリスト・研修等） ・ストレスチェックについて ・虐待防止年間川柳の決定について ・虐待防止委員より講評と助言
阿桜園	虐待防止対策委員会 毎月実施 臨時開催計回実施	・職員５～１０名	・虐待の疑いによる通報案件の確認 ・安全確保のための動作制限状況 ・虐待防止研修・身体拘束廃止に向けた研修 ・虐待防止チェックリストの実施と結果 ・事案発生時の検証及び対応策の検討 ・虐待防止責任者会議報告
	ＧＨ地域連携推進会議 施設見学 令和７年９月８日	・構成員　４名 ・利用者　１名 ・職員　３名	・ＧＨ施設見学 ・意見交換
	虐待防止委員会 本体地域連携推進会議 構成員施設見学 令和７年１１月２１日	・委員　２名 ・構成員　４名 ・利用者　２名 ・職員　５名	・第１回虐待防止チェックリスト結果報告 ・阿桜園における安全確保のための動作制限状況等 ・虐待防止研修と虐待防止に向けた取組 ・委員からの評価・助言 ・施設見学・意見交換
	ＧＨ地域連携推進会議 令和８年２月９日	・構成員　４名 ・利用者　１名 ・職員　４名	・ＧＨの支援状況 ・日常生活の質の向上に向けた取り組み ・権利擁護の取り組み ・意見交換
	虐待防止委員会 本体地域連携推進会議 令和８年２月２６日	・委員　２名 ・構成員　６名 ・利用者　２名 ・職員　７名	・虐待事案の報告・謝罪・改善計画の説明 ・運営状況 ・虐待防止チェックリスト結果報告 ・阿桜園における安全確保のための動作制限状況等 ・虐待防止・権利擁護の取組 ・委員からの講評・助言、意見交換

施　設　名	開　催　日	出席者人数	会　議　内　容
やまばと園	虐待防止対策委員会 毎月１回開催	・職員５～１０名	・各寮の虐待案件の有無の確認 ・各寮の身体拘束案件の有無の確認 ・各寮の動作制限案件や対象者の状況確認 ・虐待防止チェックリスト実施 ・ロールプレイ研修実施
	虐待防止委員会 令和７年１１月１１日	・第３者委員２名 ・利用者１名 ・保護者２名 ・職員７名	・虐待件数報告（０件） ・虐待防止対策の取組状況報告 （虐待防止チェックリスト結果報告、権利擁護、虐待防止に関する研修等の研修内容説明、外部の関係機関からの取組状況への評価） ・第三者委員、虐待防止委員からの質疑応答
	虐待防止委員会 令和８年２月２６日	・第３者委員２名 ・利用者１名 ・保護者２名 ・職員８名	・虐待件数報告（０件） ・虐待防止対策の取組状況報告 （虐待防止チェックリスト結果報告、権利擁護、虐待防止に関する研修等の研修内容説明、外部の関係機関からの取組状況への評価） ・第三者委員、虐待防止委員からの質疑応答
支援センター御所野	虐待防止対策委員会 年１６回実施	・毎回６名前後	・差別の解消について ・身体拘束について ・虐待の疑いについて ・不適切な支援について ・虐待防止チェックリストについて ・虐待防止チェックリストの検証・対応
	虐待防止委員会 令和７年１１月１３日	・第三者委員２名 ・利用者代表１名 ・保護者代表１名 ・職員７名	・上半期における虐待防止に向けた取組の報告について ・第１回虐待防止チェックリスト結果報告（前年度の比較含） ・委員からの評価・助言
	虐待防止委員会 令和８年３月１２日	・第三者委員１名 ・利用者代表１名 ・保護者代表１名 ・職員７名	・下半期における虐待防止に向けた取組の報告について ・令和8年度の虐待防止推進年間計画について ・委員からの評価・助言

10. ハイクオリティサービス推進システム

項　　目	内　　容
マネジメントレビュー	マネジメントレビューは、理事長からの指示に基づき各施設長がサービス改善に取り組むもので、今年度は下記の３点について実施した。

①意思決定支援の推進について
　障がい分野においては、各施設の意思決定支援ワーキンググループのメンバーを中心に、利用者の希望する生活や課題等のアセスメントを丁寧に行い、利用者の自己決定の尊重及び意思決定の支援に配慮した取組を推進すること。高齢分野においても、施設移行に対する意向の把握と生活の質の向上に対する丁寧なアセスメントに努めること。

②業務改善の取組と人材育成及び支援体制の充実について
　業務改善において、効率化できる部分とシステムとして平準化した上で取り組む必要のあるものを見極め、業務の効率化を推進すること。併せて中核を担う職員の人材育成及び不適切な対応や誤薬事案に至らない支援体制の充実を図ること。

③地域住民に対する広報や地域との連携について
　地域住民に対する広報やサービス情報の提供を行い、地域共生社会に向けた発信の機会と地域との連携の取組を模索すること。特に障害者支援施設やグループホームにおいては、地域連携推進会議を大いに活用し、施設のPRと外部からの要望・助言をサービスに取り入れる努力をすること。

自己評価	事業団自己評価基準に基づき、全職員が毎年１回実施し、その結果からサービス改善に向け取り組んだ。

【障害者支援センター御所野】
　福祉サービスの利用を終了した利用者や家族に対し、その後の相談先や担当者を明記した文書（退所のしおり）を作成、併せてマニュアルも改定する。

【由利本荘地域生活支援センター】
　各部署の事業会議内で、虐待防止研修（ロールプレイ）を実施した。また放課後等デイサービス等事業所連絡会で行われた研修会に参加し、こどもの心身の発達の理解に努めた。

【南部老人福祉総合エリア】
　支援に不安を抱える事案については支援方法を検討したり、職員間で話せる環境づくりを行った。職員1人ひとりの自己肯定感を高め、前向きに業務に取り組めるよう働きかけてきた。今後も職員間で情報共有しながら適切な支援が提供できるように取り組んでいく。

内部監査	ハイクオリティサービス推進システムに定められた規格類やマニュアルが適切に運用されているかを毎年一回監査し、書類及びヒアリングによる確認を実施した。

　施設職員が監査員になることで発生する業務の負担感を排除することと、監査の視点の平準化を図ることを目的として、事務局職員が監査員となり実施した。

○軽微な指摘　１件
・昨年度報告された苦情について報告会で第三者委員への報告は行っているが苦情処理票に所長印、第三者委員の記名印がなかった。また、苦情処理票の苦情申し出者への通知の欄が空欄となっていた。

○観察事項　１０件
・施設マニュアルの整備について
・年度当初に理解を開始した利用者のケース記録がケースファイルに綴じられていなかった。
・利用者の受給者証へ事業所記入欄の未記載。　　など